プレイステーション™完璧攻略シリーズ⑥⓪

Metapher
Grossip
Night
Knife
be Spirited away
Noise
Mind;Heart;Spirit
Genocide
Lunatic

【ムーンライトシンドローム】
Moonlight Syndrome

複雑な相関関係を完全把握!
物語の真実を解明するための鍵はここにある
フローチャートも充実の必携本!!

編著　ファイティングスタジオ

HUMAN ENTERTAINMENT
HUMAN

プレイステーションTM完璧攻略シリーズ60

【ムーンライトシンドローム】
Moonlight Syndrome

ムーンライトシンドローム
完全ガイドブック

【ムーンライトシンドローム】
Moonlight Syndrome
完全ガイドブック

さまざまな人々の想念によって
創り出される、あまたの奇妙な
事件。そして、その事件によん
どころなく巻き込まれていく少
年少女たち。その世界をすべて
網羅した完全ガイドブック!!

Moonlight Syndrome ～月光症候群～

CONTENTS

1st FILE

BASIC

基礎知識

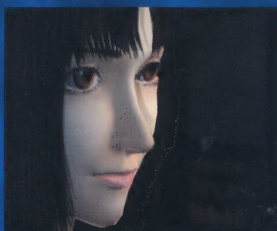
ゲームの進め方と操作
OPERATION

ゲームの流れ

このソフトはアドベンチャーゲームだ。しかしながら、近年の同ジャンルのゲームに見られるカルト的探索は少ない。従って、誰もが簡単にプレイでき、エンディングまで到達できるようになっている。そのため選択肢によるストーリーの分岐も、複雑な謎もない。またプレイヤーにとってできるだけ避けたい、選択肢その他によるゲームオーバーもない。キャラクターを目的の場所に移動させ、会話を読めば物語は進行していく。

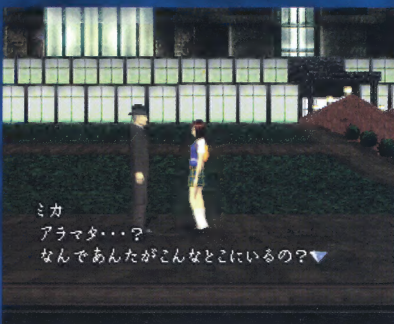
◀関係ない場所には入れないようになっているので、迷うことはない

操作方法

前述したように誰でも容易にプレイできるゲームというだけあって、操作は非常に簡単。会話シーンでは方向キーで選択肢のカーソル移動、○×△□ボタンのいずれかで選択項目の決定となっている。また、セリフの最後に▼マークが出ている場合は、○×△□ボタンのいずれかを押すとメッセージを先に進めることができる。移動シーンでは方向キーでキャラクターが移動する。○×△□ボタンのいずれかを押しっぱなしの状態で、方向キーを使用すると、走って移動することも可能だ。ちなみに、一部のイベントやキャラクターによっては、○×△□ボタンのいずれを押しっぱなしにしても、走って移動することができないので注意。

◀音声による会話は、画面に文字が表示されないので聞き逃さぬように

▶イベント発生ポイントに触れれば、自動的にイベントに突入する

セーブの方法

基本的には、各章の最後にしかセーブすることはできない。だが、章によってはプロローグに登場するアラマタという人物がいる場合がある。そのアラマタに接触すれば、章の途中でもセーブが可能だ。しかし、これは中断データなのでシナリオをクリアするとそのデータは消去されてしまう。また、タイトル画面でロードを選ぶとセレクト画面が現れる。いちどクリアし、セーブしたシナリオはこの画面上で選択でき、何度でも楽しめるぞ。

◀ゲームオーバーになることはないが、それでも心配な人は忘れずに

CHARACTER'S FILE
キャラクター紹介

登場人物
CHARACTER

岸井ミカ

MIKA KISHII

この物語の主人公。雛代高校２年生で、前作では明るく無邪気、噂の情報発信地としてバリバリのコギャルぶりを発揮していた。しかし、ユカリやチサトと出会って、ともに行動することで大人へと変化しつつある。流行や噂に流され、何事もうわべで判断しがちだった少女は、人間の内面と、現実を直視する目を養い、物事の本質を理解できる女性へと成長した。最近ユカリに似てきたと、自他ともに感じている。だが、好奇心の旺盛さは、まだまだ健在の様子。そのため今回も、数々の奇妙な事件に巻き込まれていく。ちなみに、ミカは冬葉スミオに好意を抱いている。

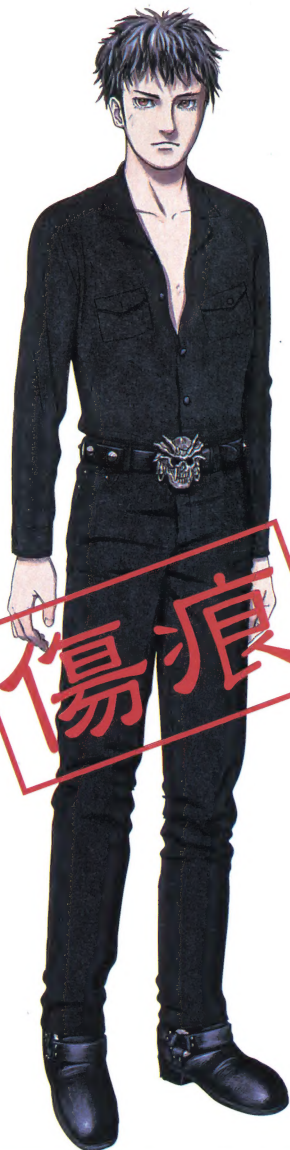
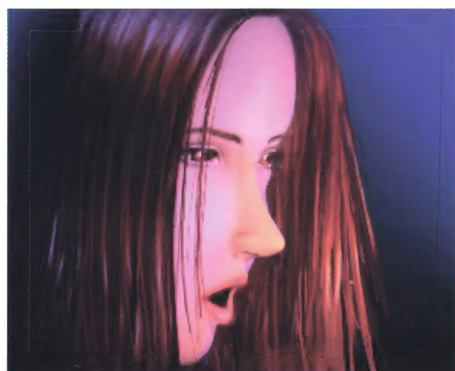
登場人物
CHARACTER

華山 リョウ

RYO KAZAN

ミカを表の主人公とするのなら、裏の主人公というべき男、リョウ。現代の群れることでしか自分のスタンスを確認できない同世代の人々のなかにはとけこめず、高校を中退。しかし彼もまた、多くの若者たちと同様に、自分の生きる目的を見つけることができず彷徨していた。現実から目を背け、すべてのことから逃げ出し、自分自身の気持ちすら認めることができない。それは、姉のキョウコのことを愛していながら目をふせ、ごまかしていることからもうかがえる。姉がこの世を去ったあと、彼女に瓜ふたつのミカに惹かれ接近。彼女をとりまく事件の波に飲みこまれていく。

登場人物
CHARACTER

守護

長谷川ユカリ

YUKARI HASEGAWA

雛代高校の３年生。ユカリ、チサト、そしてミカの３人組のなかではリーダー的存在。前作からの恋人である高校教師の北村とは現在進行形であり、一層絆を深めているようだ。そうなると世の多くの女性の例に漏れず、本編冒頭ではミカたちと少し疎遠に。だが、ミカにとってユカリはよき先輩でもあり、姉のような存在。ユカリにとってもミカが特別な存在でオアシスであることに変わりはなく、幾度となくミカのピンチを救う。それゆえ、しだいに大きな渦の中心へと巻きこまれていくことに。

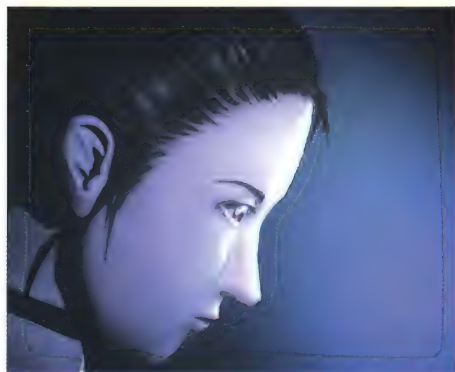
登場人物
CHARACTER

逸島 チサト

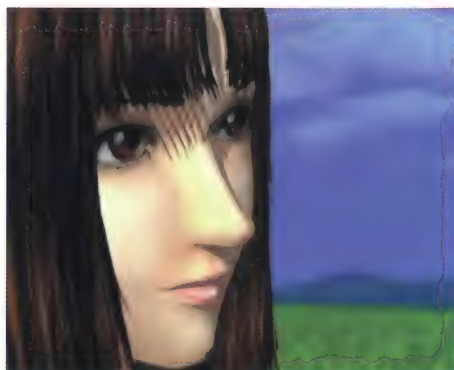
CHISATO ITSUSHIMA

雛代高校の3年生。ユカリとは十年来の幼なじみ。いかなるときでも冷静で、どんな人にも温かく接することができる心優しい女性だ。ユカリとミカにとっては、母親的存在でもある。また、彼女には強い霊感があり、前作でもユカリやミカとの冒険における再三のピンチをを切り抜けてきた。今回もその霊感で異変に気づき、ミカたちを救う場面も。表向きは控えめだが、実は強靭な彼女の心は周囲の人々だけでなく、見えない霊や異質なモノたちの感情をも揺さぶる。

登場人物
CHARACTER

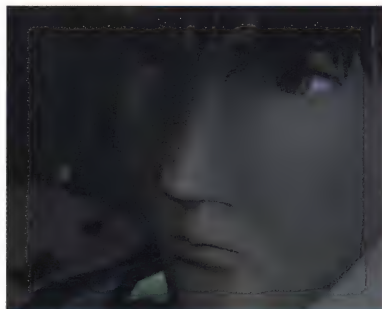
刹那

華山キョウコ

KYOKO KAZAN

華山リョウの実の姉にして最愛の女性。現代という時間と空間のなかからドロップアウトし、浮き出てしまったリョウの唯一の理解者だ。冬葉スミオの恋人でもあるが、彼女がスミオを真に愛していたのかどうかは不明。また、顔がミカと瓜ふたつということで、雛代高校で一時期話題にもなった。本編の冒頭で不審な交通事故により亡くなってしまう。それにより、逆にリョウの心のなかでキョウコの存在は大きくなり、リョウを現実の世界からさらに遠ざけることになってしまう。

登場人物
CHARACTER

冬葉スミオ

SUMIO TOHBA

冬葉ルミの実の兄である19歳の大学生。キョウコとは恋人だったが、リョウとキョウコの頑ななまでの結びつきと、歪んだ愛がいつもふたりの妨げになっていた。そのことでリョウに対して異常なまでの憎悪を抱きながら、自分の主催したクラブイベントの会場で壮絶な死を遂げる。スミオ亡きあともリョウの心のなかでその存在は増大し、巨大な壁として立ちふさがり、苦しめつづけている。また、スミオ独特のフェロモンにより、ミカをはじめ多くの女性が劇中、彼に身を任せた。

登場人物
CHARACTER

鹿原 アリサ

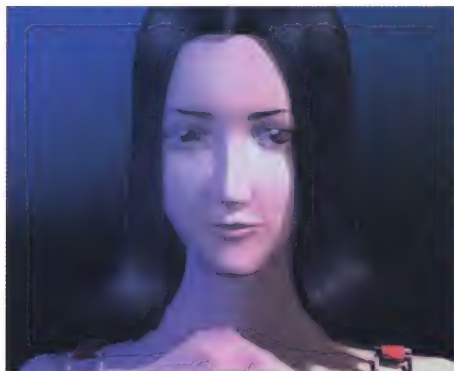
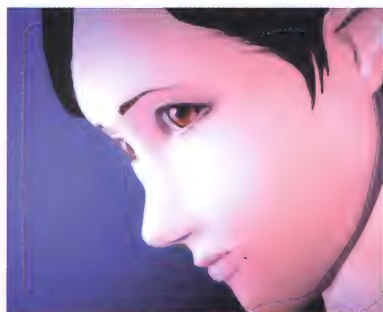
ARISA KAHARA

雛代高校の1年生。非常に明るい性格だが、周りの状況には鈍感でおっとりしている。自分に関係ないことには無関心でマイペースだ。先輩に対して敬語を遣うなんて世の中のモラルは、彼女にとってナンセンス。ミカの上を行く新世代人間ぶりである。しかし、アリサの持つおとぼけの不思議な魅力は、ミカにとってはオアシスとなり彼女の心に安らぎを与えることも。チサトと同様に、霊感がありミカを取り巻く事件たちに、図らずも大きく関わっていくことになる。

登場人物
CHARACTER

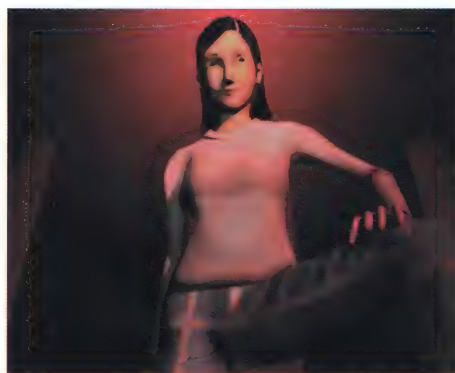
冬葉 ルミ

RUMI TOHBA

冬葉スミオの実の妹である雛代高校の2年生。ミカとはクラスメイトである。リョウとは幼なじみで恋人だったが、リョウはその実、姉のキョウコを想い、そのキョウコはスミオと恋人であり、さらにルミもスミオと禁じられた関係にあるという複雑な状況のなかにいる。スミオ亡きあとも想いが絶ちきれず、リョウをスミオの代わりとしてしか見ることができなくなっていた。それなのに、リョウがミカに惹かれている、という事実に対してわけもわからず嫉妬している。

登場人物
CHARACTER

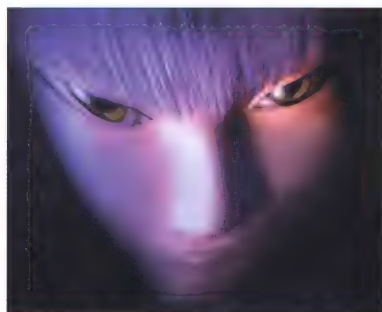
逸島 ヤヨイ

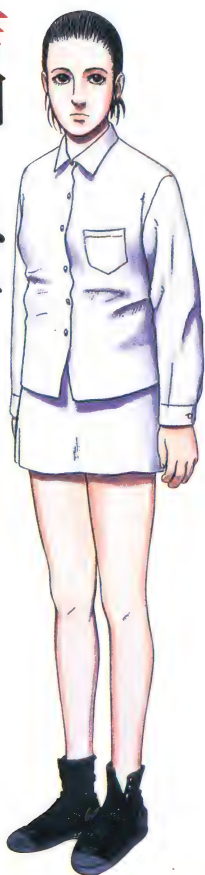
YAYOI　ITSUSHIMA

本人は逸島チサトの実の妹と言っているが、真相は不明。その正体はチサト以外誰も知らない。後出の「白髪の少年」の支配下にあり、姉のチサトには強い敵対心を抱いている。容姿だけを見れば非常に温厚そうに見えるが、女としての情念が深く凶暴な性格である。雛代で起こる奇妙な事件にどう関係しているのか不明だが、ミカやリョウの前に現れ、かき回して状況を悪化させる場面も。また、生前のスミオとは深い関係にあったが、亡き後はリョウに異常なまでに好意を寄せる。

登場人物
CHARACTER

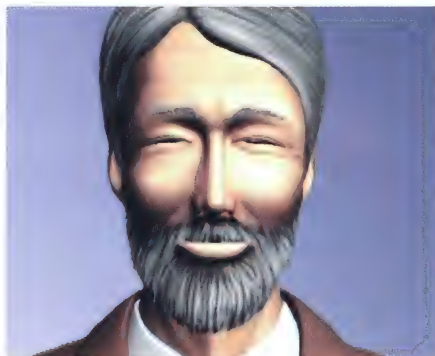
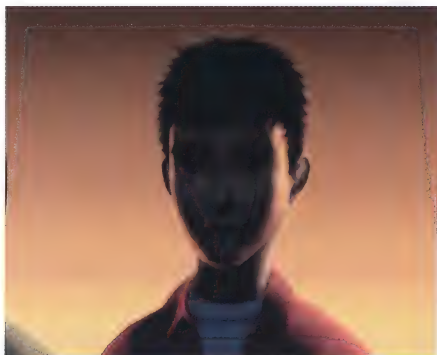
白髪の少年

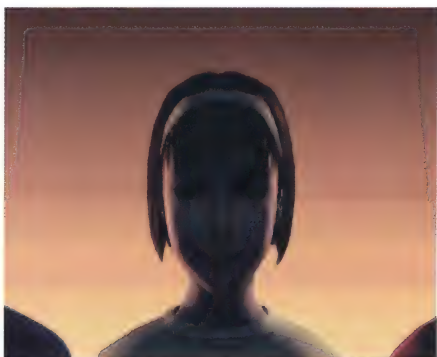
HAKUHATSU NO SHONEN

すべての事件の元凶ともいえる、青い瞳と白い頭髪を持つ謎の少年。憎しみや悲しみなど人々のさまざまなマイナスの意志が創り出したもので、その正体は人間の誰もに潜んでいる「狂気」に憑き棲む契約の神、ミトラ。前出の逸島姉妹と因縁がありそうなのだが、ゲーム中では深くは語られていない。ミカやリョウたちの前に幾度となく現れ、邪魔と思うものは現実から消去し、雛代の町を負の世界へと導く。チェスの駒を操るが如く、残忍かつ知略的な少年の指さばきが始まった。

全員雛代高校の2年生で、ミカのクラスメイトだ。カヅキの親は別居中で家を空けがち。ミホは親の仕事の関係でひとり暮らし。ふたりとも家庭の愛情は不足気味。ミキはミカと1年生の時も同じクラス。ミユキは熱心な天体観測部員で、キミカはリョウが雛代高校在籍時のクラスメイトだ。こんな普通の女子高生たちが、雛代高校を包む悪念の犠牲と散った。ミカとのわずかな接点が彼女たちの運命の歯車を違えていく。

吉田ミユキ

高橋キミカ

校長先生・広瀬先生

化学の広瀬先生は、特別目立つ存在ではなかったが、内気な彼は悪魔の格好の餌食となり、汚名を着せられ犠牲になってしまう。一方、校長は、非常に穏やかな性格で生徒にも好評だ。彼が校長となってから新校舎は建つ、偏差値は20以上上がるで、その辣腕ぶりは雛代中の知るところである。しかし、その実体は狂気に満ちた異常者であり、多くの人が彼の手によりあやめられた。

▲上段：広瀬先生、下段左：異常な校長先生、右：普段の校長先生

リル・ルカ・ヒロシ・タケル・ナナ・タクミ

ミカの住むマンションの、隣にある団地の中学生たち。彼らはリルという少女を中心に世界を形成し、ダイブと称して自殺をくり返す。しかし、それは彼らなりの社会への反抗と主張だった。「私たちに与えられた時間は月が見え始める隙間の時間」と語る彼らは、自分たちより下の世代に居場所を解放すべく身を呈したのだ。すべての元凶はリルにあると思われたが、彼女もまた雛代に満ち溢れた悪意の犠牲者でしかなかった。

▲上段：タケル、中段左：ルカ、右：ヒロシ、下段：リル

登場人物相関図
Diagram of Correlation

人はさまざまな人に出会い、感情を持ち、影響を受ける。それは、このゲームに登場する人物たちも例外ではない。登場人物たちは、ゲーム中にさまざまな人と出会い、影響を受けていくのだ。ストーリーのより深い理解のために、登場人物がどのような関係にあるか知っておこう。

冬葉ルミ

相原カヅキ
桂木ミホ
香坂ミキ
吉田ミユキ

先輩

クラスメイト

長谷川ユカリ

親友

中学生

リル
ルカ
ヒロシ
タケル
ナナ
タクミ

問題解決に協力

先輩

逸島チサト

同じ部

岸井ミカ

後輩

執着

教師

広瀬先生
校長先生

鹿原アリサ

敵対（？）

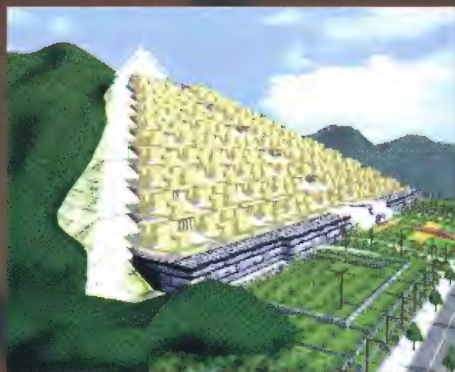
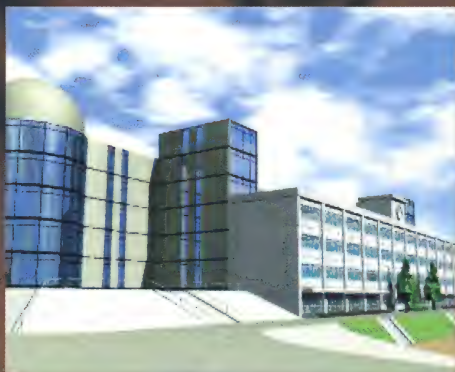
Diagram of Correlation

物語の舞台
The Scene of the Story

このゲームはプレイヤーが自ら操作して移動することは少ないので、各地域の位置関係を覚えておく必要はあまりない。ただし、そのぶん情報量も少ないので、いかにして舞台設定を読むかがストーリーを把握するカギとなる。ここでは、ゲームの舞台となるさまざまな場所の解説をしていこう。

ミカの住むマンション

岸井ミカが両親と暮らすマンション。地域住民には"ピラミッド御殿"と言われるほどの高級マンションだ。ゲーム中では玄関とリビング、ミカの部屋しか出てこないので間取りなどは不明だが、建物の外観や備え付けのエレベーター、一軒家でもないのに二階建てという構造を見ても高級感が伺えるだろう。この場所はゲーム中では「プロローグ」、「奏遇」、「変嫉」の章で登場する。

雛代高校

ミカ、ユカリ、チサトらが通う高校。前作でも登場したが、校舎が改装され、近代的な建物になった。そのためか、入学希望者も倍増し、いまでは偏差値70を越える地域でも指折りのエリート校へと変貌した。建物は地上5階、地下2階からなる北校舎と、地上4階からなる南校舎で構成されている。ゲーム中、頻繁に訪れることになるので、26ページに校舎の全体マップを載せておいた。

中学生の住む団地

「浮誘」の章に登場するリル、ナナ、タケルたちが住む団地。この団地はミカのマンションの隣にあるが、“ピラミッド御殿の城壁”という呼び名からもわかるとおり、一般家庭が住むごく普通の団地である。団地の大半の家庭が夫婦共働きで、日中はほとんど人の気配がないという。そのためか、普段はほとんど人目に付かずにいたが、最近飛び降り自殺が多発し、一躍注目を浴びることになった。

霜北

若者向けのお洒落な飲食店やブティックが立ち並ぶ繁華街。「変嫉」の章で登場する「Panic」や「MISERABLE LIE」、「RANK」といった店はこの街にある。ミカの家の近くの雛代駅からは地下鉄1本でしかも20分足らずで行くことができる。そのため、ミカたちはよくここにショッピングに来ているようだ。東京の某所と名前が似ているのは単なる偶然!?

リョウの部屋

華山リョウが住む部屋。工場の倉庫のような薄暗いこの部屋には、家具はほとんどなく、古ぼけたソファーとテレビなどがあるだけ。まさに、謎めいた彼のイメージとピッタリの部屋と言えよう。ゲーム中登場するシーンはほとんどないため断定はできないが、彼の部屋を見る限りひとり暮らしをしていると思われる。最愛の姉を亡くして絶望に打ち拉がれるリョウは、この部屋で何を思うのか？

クラブ

雛代近郊のとあるビルの地下にあるクラブ。店の名前は「ＬＯＳＴ　ＨＩＧＨＷＡＹ」。メインフロアの上には、バーとＶＩＰルームがあり、クラブにしてはかなり広い造りになっている。冬葉スミオがよくイベントを開催していたため、コギャルのあいだではかなり人気があったようだ。焼身自殺の事件のあと一時営業停止になったが、最近営業を再開。その後もさまざまな事件の舞台となる。

あっちの世界

　このゲーム中での「あっちの世界」には、明確な定義はない。人により空間の歪んだ学校がそれであったり、チサトが言う死の世界であったり、あるいは人の心のなかであったりもする。しかし、ただひとつ言えるのは、現実の世界とは違う空間であるということだ。白髪の少年の手によってミカたちが垣間みた「あっちの世界」とはどんな世界なのか？　それは君自身で感じてほしい。

夢

死

雛代高校の構造

HINASHIRO HIGH SCHOOL

雛代高校には多くの教室があるが、ゲーム中で入れる教室は限られている。使用する場所は、マップに名称を載せてあるので参考にしてもらいたい。なお、廊下や階段は一部のシナリオを除き、自由に往来できる。

南１F

ロビー

昇降口

南２F

１年教室（アリサの教室）

南３F

2年教室（ミカの教室）

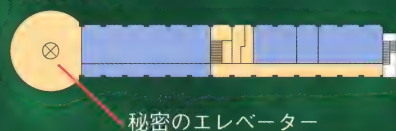
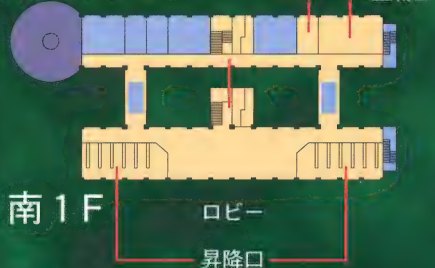
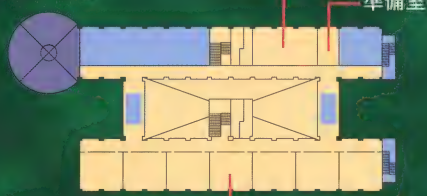
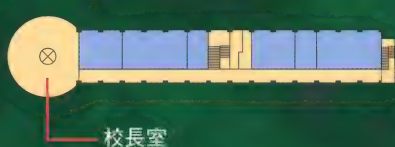
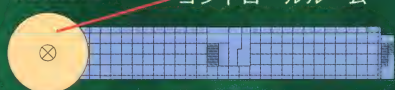
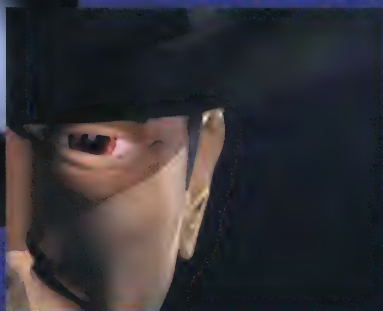
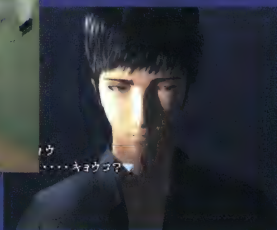
北５F

2nd FILE

Photo Story
フォト・ストーリー

プロローグ
PROLOGUE

岸井ミカの住む街、雛代。すべてはそこで始まった。事件が事件を呼び、そして繰り返されていく。現実から目をそらそうとする人々の意思は、しだいに街をのみ込み、無気質な世界を形成していく。

ひとけのない夜道を歩くミカは、背後に誰かの気配を感じる。そのあと、どこからか子供の笑い声が聞こえ、恐怖で逃げ出す。マンション入口まで逃げた彼女は、アラマタと遭遇。雛代に迫る危機について聞く。

「アンタ…
狙われてるよ」

「雛代高校には、
何か特別な意味が…」

「キョウコ!」

家に帰ったミカは食事も取らずに寝てしまう。しばらくするとスミオから電話がかかってくる。ミカは彼に会うために家を抜け出すが……。

CHECK POINT

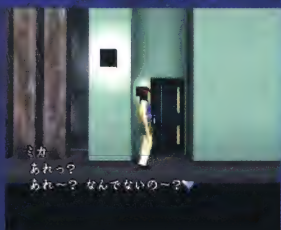
マンション前でミカを呼ぶ声が聞こえたあと選択肢が出るが、これを選ぶだけではイベントは発生しない。いちどマンションの前の路地へ出て左に進み、アラマタの話を聞かないと先に進めない。また、ミカが家を抜け出すイベントでは、移動のさいに少しでも走ってしまうと、お母さんに見つかってしまい、家を出ることができないぞ。

「どうしたの?
元気ないみたい…」

「聞いた、昨日の事故…」
「キョウコさん死んだとか…」
「やめなって、そんな話」

翌日、学校では麗月峠の事故の話で持ちきりだった。ミカはその事故で、自分と瓜ふたつのキョウコという先輩が死んだことを聞かされる。また、スミオがキョウコと付き合っているという噂も聞かされ、ミカは動揺してしまう。

「落とし物だよ…」

自分の周りで事件がたて続けに起き、不安を隠せないミカは、友人の誘いも断り家へと帰ってしまう。そのあと、彼女は謎の白髪の少年と出会うことになる。

「ミカ、学校は楽しいか？」

茶の間でテレビを見ながら何気ない会話をしているミカとその両親。そこに学校で噂があった麗月峠の事故のニュースが飛び込んできた。ミカの父親はこの事故で死亡したキョウコを見て、あまりにもミカと似ているため驚愕してしまうのであった。

「…大丈夫だよパパ
私は今を生きているから…」

華山　響子さん（18）

「おいこれミカじゃないか!?」

CHECK POINT

ニュースをよく見ていると、白髪の少年とミカを夜中に呼び出した男らしき人物が事故現場にいるのがわかる。はたして、このふたりは物語にどう関係していくのだろうか？

Metaphor

夢題 MOWDEI

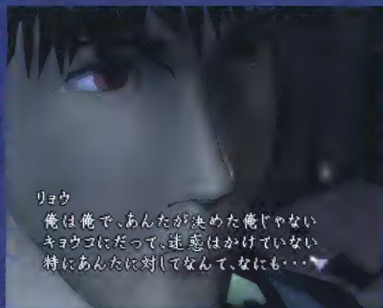
夢【ゆめ】現実では起こりえない事を睡眠中に経験する一種の幻覚。厳しい現実から遊離して享楽する楽しい環境。

題【だい】作品の内容を読者（観客）に知らせるための名前。作品のテーマやそれをよみ込むことが要求される事柄。

生きる支えを失った人。目的を失った人。自分の存在価値がわからない人。そういった人々は夢の世界へ身を委ねる。現実との区別がつかなくなるとも知らずに……。

夢のなかではキョウコに、現実の世界ではスミオに干渉されるリョウ。夢と現実の両方で苦しむリョウはクラブへと向かう。

「…いいコね」
「愛してるわ、リョウ」

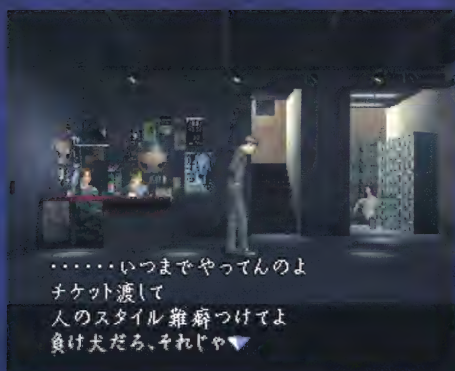
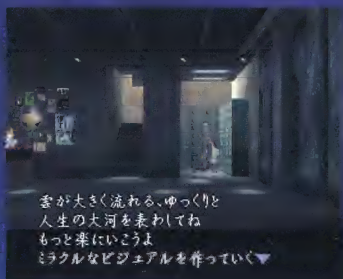
「狂ってるよ」

リョウ
俺は俺で、あんたが決めた俺じゃない
キョウコにだって、迷惑はかけていない
特にあんたに対してなんて、なにも・・・

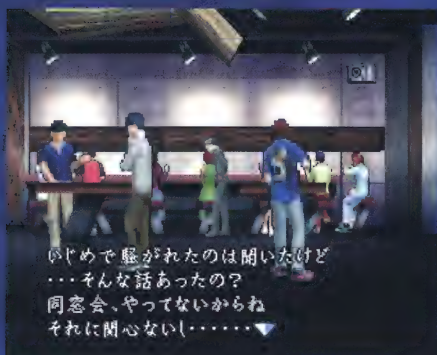
「その無神経さだよだから
キョウコはキミから離れられない」
「邪魔だったんだよ」

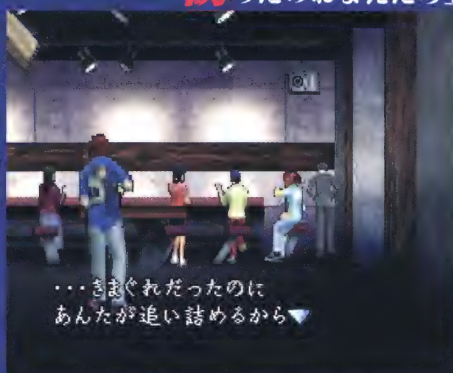
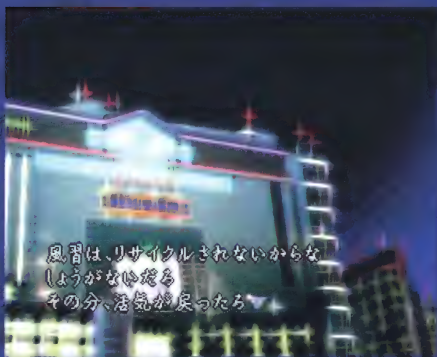
クラブの前でリョウはスミオの妹ルミと遭遇。だが、そこでルミとも口論に。リョウは干渉のない世界へ逃避する。

「兄貴の使いか？」

「リョウの視線は、アタシを突き抜けていた」

他人からの干渉を避けるためにクラブへ来たリョウ。彼は、目的もなくクラブのなかをうろつきながら、しばらく周囲の人々の会話に耳を傾けることにする。はたしてリョウは、人々の会話に何を見い出すのか？

「社会なんて無理感じるよ
何によりそいたいのかな？
クレバーって事？」

「悲しいねキッズは、
もっと楽にいこうよ」

「あいつ、
生徒に手出して自殺したんでしょ」

「あたしに負担かけないでよ」
「誘ったのおまえだろ」

「だからって
ここまでやるか？」
「オレの思い出は
形にないよ」

クラブでふたりの女性に出会うリョウ。ひとりは高校時代の同級生、高橋キミカ。そしてもうひとりは謎の少女のヤヨイだ。

「あんた、手がふるえているよ」

「平気、もう少し、もう少しだから…」

「不足を補っているの…興味ある？わたしに」

ヤヨイに誘われて奥へ行くと、そこにはスミオが待ち受けていた。興奮するリョウを尻目に、スミオは紙袋をひとつ手渡した……。

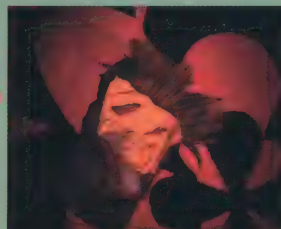
「…普通」

「こっちよ…」

「これはね復讐なんだよ」

「見るんだリョウ」

紙袋のなかには実はキョウコの頭部が入っている。このあとに続く事件にも、首なし死体が登場する。関連は……!?

紙袋の中身を見て気を失ってしまったリョウ。そんなリョウを尻目に、ホールでスミオはキミカと出会う。キミカはスミオに復讐すべく自分の身体に火を放ち、スミオと心中を図るのだ。死ぬ間際にスミオは何を思うのか？

「今度はわたしのルールで罪を償ってもらう」

「……いいだろう」

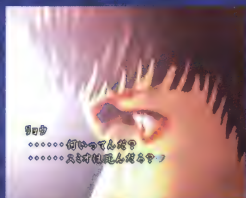
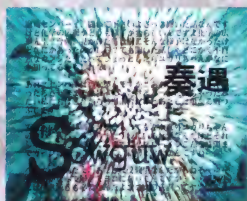
不思議な草原に立ちつくすリョウ。そこにはルミとキョウコ、そしてスミオの3人がいた。とりあえず、リョウは彼らの話を聞くことにした。

「…この瞬間がずっと続けばいいのに」

「ミリョウ」

「…スミオは怖い人だから、…元気でね」

「この自然を目のあたりにしてまだ偽ることはできるかい？」

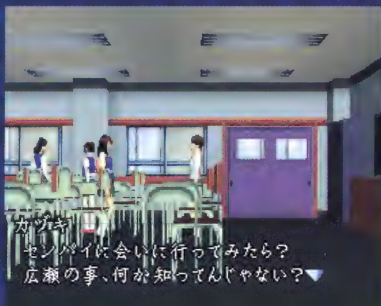
自宅に戻ったリョウは、キョウコからの電話を受け取る。リョウはスミオの死を告げるが、キョウコは？

Gossip

奏遇 SOWGUW

奏【そう】君主に申し上げる（奏上・奏請・奏聞・上奏）。楽器をならす、かなでる（奏楽・演奏・合奏・伴奏）。

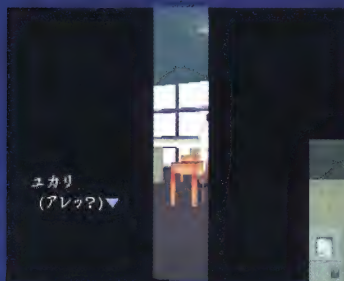
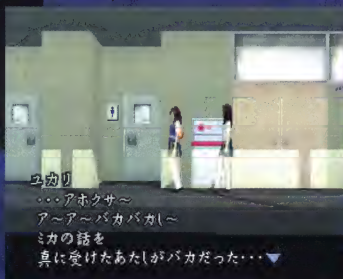
遇【ぐう】出あう（遭遇・千載一隅）。ある程度で人に接する（待遇・厚遇・優遇・礼遇・不遇）。

突然その遭遇はやってきた。ミカの目の前に謎の少年が現われたのだ。しかし、彼女は少年との遭遇が、これから起こる出来事の序曲にすぎないことを知らない……。

いつものように噂話に花を咲かせるミカたち。そこで化学の広瀬先生の噂を知る。ミカはユカリを捜し真相を確かめにいく。

「家庭が冷えきってて…」

「化学の広瀬…
アイツ、去年も何か問題起こしてなかった？」

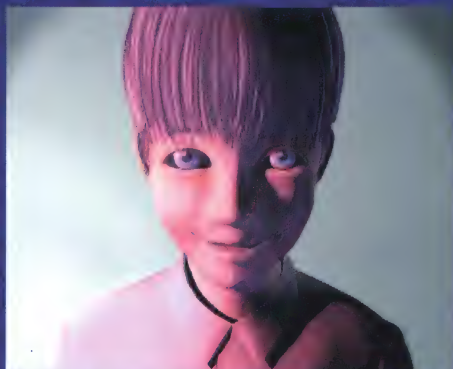
「アレっ!?」

「・・・・・・」

屋上で見つけたユカリに、噂を確かめることを提案。ふたりが化学室のドアの隙間から覗いていると突然、広瀬先生が飛び出してきた。が、期待に反し先生はトイレに。ユカリは呆れて帰っていく。ひとり残されたミカも帰ることにしたが、ラクロス部員に捕まり部室へ連れて行かれる。

「ねー昨日のニュースみた？
ウチのガッコの奴が死んだって。
死体のクビだけが発見
されなかったってハナシらしいよ」

部室でも、噂話が飛び交っていた。ミカがその話を聞こうとした瞬間、急に部室が暗くなり、周りから人が消えてしまう。ミカはドアと窓を開けようとするがビクともしない。すると、突然謎の少年が現われ、ミカに話しかけてくる。はたしてこの少年は何者？

「閉じこめられた？」

「ここには誰も
いないよ」

CHECK POINT

化学室イベントは、カヅキとの会話で「ねえ、何かおもしろいことない？」を3回選ばないと発生しない。

「人間は弱い生き物でね
自分たちから
コントロール
されたがってる」

「肉体が滅びても
魂だけは不滅だから
死を冷静に受け入れたときに
全ての罪が許されて
魂が地上から
解放される」

Nightmare

変嫉 HENSHITSU

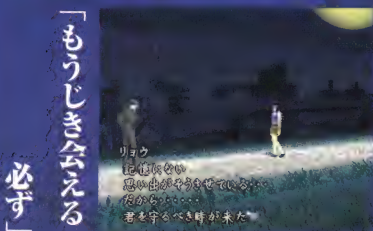
変【へん】違った状態や局面になる事。生活の秩序を乱すような突然の出来事。普通と違う正常とは思われない様子。

嫉【しつ】ねたむ。嫉妬。それまで抱いていた優越感、愛情、独占感がほかに凌がれたときに感じる、ねたみの気持ち。

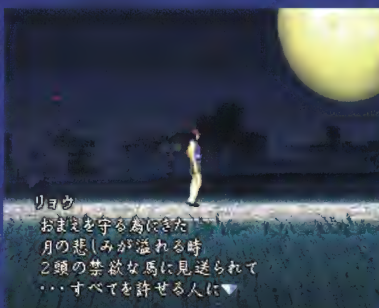
自分の周りに不可解な出来事が起こっていることに気付き始めたミカ。はたして、これは偶然なのか、または人間に嫉妬した妖精のしわざなのか、それとも……？

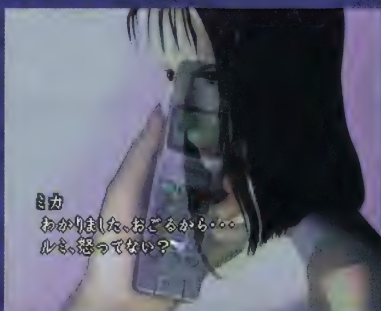
不思議な風を感じたミカは、その後不思議な体験をする。満月の土手にたたずむリョウ、そして血まみれのチサト…。彼らのメッセージは何を意味するのか？

「…なんなの」

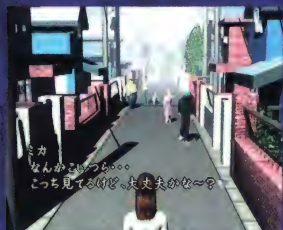
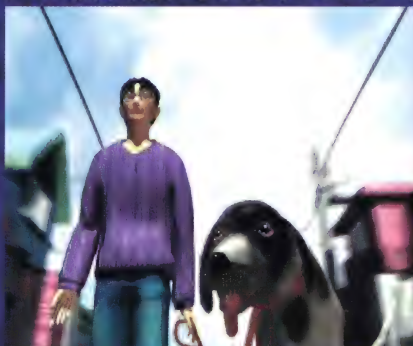
「邪魔なのは家族なんだよ」

「もうじき会える 必ず」

「妖精は人間に嫉妬するの」

「会いたかった、あれから…」

CHECK POINT

ここではどの選択肢を選んでもストーリーに影響はない。何度かやり直して、それぞれのパターンを見るのもいいかも。

電話のベルで目を覚ますミカ。そう、さっきの出来事は夢だったのだ。待ち合わせに遅れたミカは急いで出かけるが、またしても不思議な体験をする。

「もうこんな時間」

「…なんだろ？大丈夫かな？」

「おい！子供がどこ行くんだ」

「キミ女子高生？」
「…逃げないほうがいいよ」

「この犬、気がちっちゃいんで…」

「…何かこのコ、様子がヘンですよ」

「私のベイビーどこいったの？」
「返してちょうだい！かわいいベイビー」

CHECK POINT

路地を抜けるイベントでは間違った選択肢を選ぶと先に進めない。そこでふたり目以降の選択肢選びのコツを教える。ふたり目は“逃げる”を選んではダメ。3人目は相手の機嫌を損ねてはダメだぞ。ちなみに、ベイビーの名前はミカでO.K.だ。

ミカが路地を抜け出ると、突然場面は変わってリョウのシーンになる。リョウはミカを追いかけて霜北の街へと向かった。

「…どこだ」

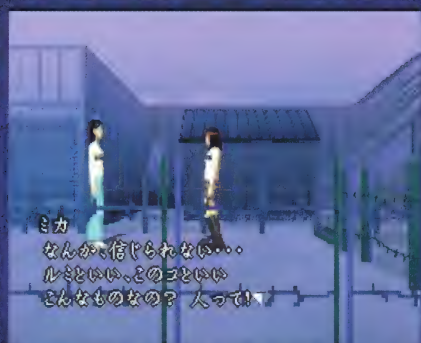
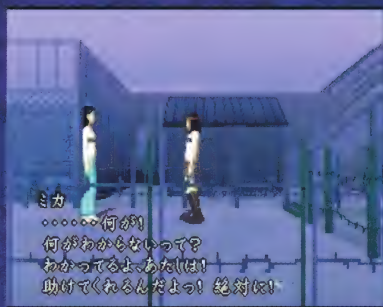
「！？・・・」

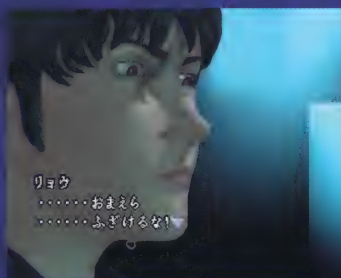
「クソガキが…」

霜北についたミカは、待ち合わせ場所へと急いだ。しかし、アリサとルミはどこかへ行ってしまい、結局ひとりぼっちに。その後、街を歩いていると今度はヤヨイに出会う。そしてヤヨイは自分は逸島チサトの妹だと告げる。

「…よくいうよ。人が何も知らないと思って」

「岸井ミカさんね…さがしたわ」

ヤヨイはアリサがミカを捜しているといい、その場所に案内してくれると言う。ミカはヤヨイについて行くことにする。

「慈悲のつもりかなにかしらないけど意味性を感じない」

「この世界はそういう世界よ」

ヤヨイを見失ったミカの目の前にストーカーが現われ、ミカを襲おうとする。一方、ミカを追って街へ来たリョウは、ヤヨイと出会いミカに危険が迫っていることを察知。リョウはミカのもとへと向かうが、今度はリョウの前に白髪の少年が現われるのであった。

「何もできないよ」

「…またおまえか」

ミカは危ないところをユカリとチサトに助けられるが、捕まったストーカーは舌を噛んで自殺してしまう。

「!?……」

「ミカちゃんのことずっと守るから」

「…………」

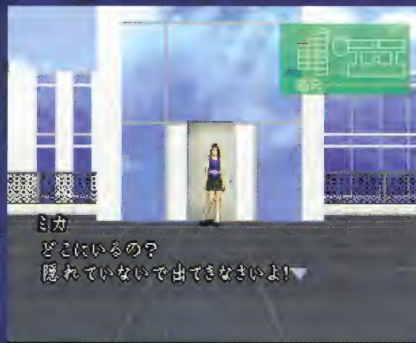
Knife

片倫 HENLIN

片【へん、かた】きれはし。わずかの。合わせて完全になるものの一方だけ。人の目に立たないこと。

倫【りん】なかま。同類。人の守るべき道。倫理（行動の規範として道徳感や善悪の基準）。

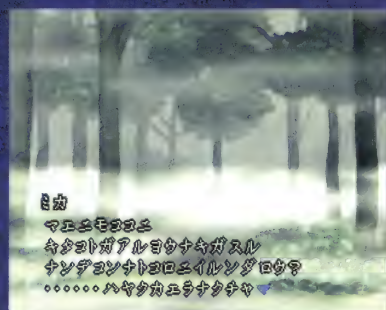
白髪の少年の侵食は雛代の街だけではなく、人々の心のなかにも及ぼうとしていた。ここで起きる不可解な出来事は、まだその片鱗にすぎないのだ。

いつもと同じ学校。教室で友達とたわいない話をしていたミカは、白髪の少年を目撃する。ミカは少年を追うが、どこにも見あたらない。ふと気づくと、歪んだ空間に足を踏み込んでしまっていた。

「ひょっとして
ボクを捜してるのかな？」

「あれ？ あの子たしか」

「ボクはこっちだってば、
クックックッ」

CHECK POINT

このマップは各階層のつながりに規則性がある。下り階段を例に挙げると南３Ｆ→北４Ｆ→屋上→南３Ｆという具合に、３つの階層が一方通行でつながっている。詳しくは71ページ参照。

少年を追って教室へ入ると、そこには森が広がっていた。森にはアリサやユカリ、チサトなど顔見知りの友人がいた。ミカは彼女らのもとへ行こうとするが、体が動かない。ただミカの叫び声が森に響き渡るだけだった。

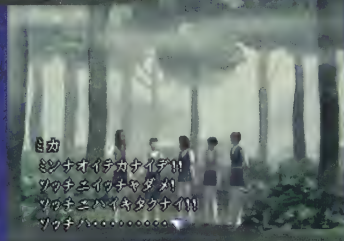
「…ナニコレ？」
「ココハドコ？」

「ミンナが楽シソウニ笑ッテイル」
「デモ体ガ動カナイ」

ミカ
デモ・・・・・・
・・・・・・・・・?
・・・・・・・・・??
・・・・・・・・・カラダガウゴカナイ

ミカ
センパイッ!
アタシノコエガキコエナイノ?

「ミンナオイテカナイデ」
「ソッチヘイッチャダメ、イキタクナイ…」

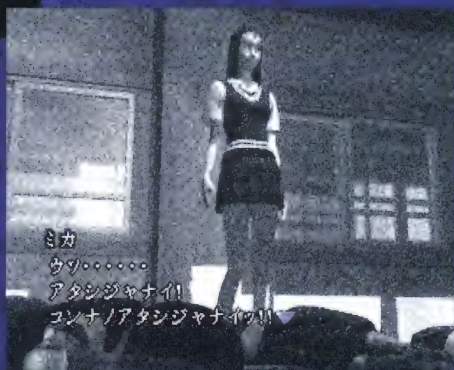
ミカ
ミンナオイテカナイデ!!
ソッチニイッチャダメ!
ソッチニハイキタクナイ!!
ソッチハ・・・・・・・・・

教室のなかはまさに惨劇だった。床に横たわる友人の死体、ナイフを持つミカ、返り血を浴びた身体。そこに再び少年が登場。これはミカの仕業だと言うが、果たして……？

「何コレ、何ナノ」

「あ〜あ、ヤッちゃった、しーらない」

「フツーここまでやらないって」

「ヒドイなー、みんなトモダチだったのに」

「ウソ…アタシジャナイッ」

「あ～あ、まだシラきってるよ」

「こんなのたいした問題じゃないよ」

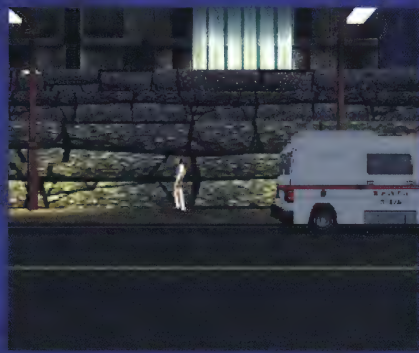
「もっと自分に対してスナオになりなよ」

「自分だって本当はコレで良かったって思ってるくせに」

「…

…」

The tragedy
has begun …

ミカの戸惑いをよそに少年のセリフは続いている。死体の山を目の当たりにしたミカは、思わず悲鳴を上げてしまう。その後、彼女は無人の教室で意識を取り戻す。いまのは夢だったのか、説明のつかない不安がミカの中に広がっていく。

CHECK POINT

最後に救急車が出てくるが、実は「浮誘」の章で登場する団地へと向かっている。このように、何気ないシーンから人物や事件の関係を探っていくのも、このゲームの楽しみのひとつだ。

浮誘 FUYOU

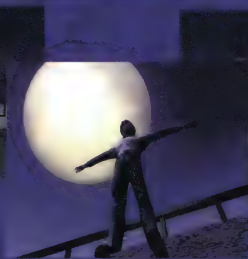
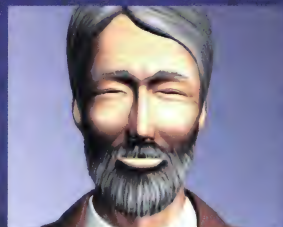
浮【うく】地上から離れ、空中にとどまった状態になる。一体化していなければならない部分が本体から遊離すること。

誘【さそう】あるものに自分と同じ行動をとるように勧めること。他者に、あることをそうするように働きかけること。

浮誘 FU YOU

be Spirited away

自我確立とともに社会の矛盾を感じる中学生たち。すべてが画一化された現代社会に増殖する、無目的な人々のなかで、浮き出た子供たちを主題にしたのではないか。

子供の笑い声と、無数の眼光が、団地の屋上に立つひとりの少年に向けられていた。やがてその少年は、怯えながらも何かに誘われるように宙に舞った。

ダイブのあった団地はミカのマンションの隣だった。事件を知ったミカは、さっそくユカリに報告。それにチサトやアリサも加わり、団地を調査することに。

ユカリ
“ピラミッド御殿”の城壁ね・・・
あれがどうしたのよ？

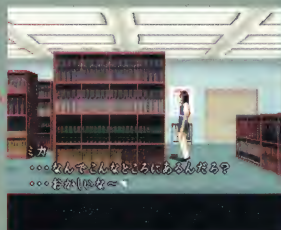
「それも3回目ですよ」

「213の岸井ミカくんと…」

「いい人だよね校長先生って」

CHECK POINT

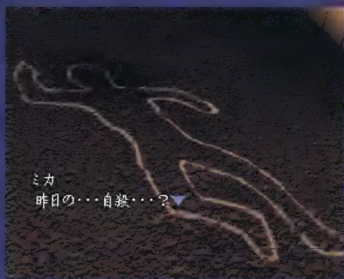
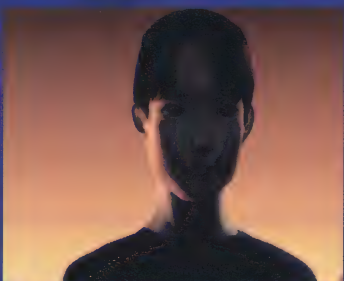
なくしたPHSはちょっと見つけにくい所にある。ズバリ場所は図書室。詳しい場所は下の写真を参考にしてほしい。

「団地の子だ」

団地で待ち合わせるものの、ミカ以外は遅刻。ひとりで調査へ。そこへ3人の中学生が現れ、帰るよう忠告されるのだった。

忠告を受けたミカは、さらに好奇心に火をつけ中学生のあとを追う。しかし、みな口は堅く、謎だけが深まった。

「なに、このオンナ」

「だれもなにもしてくれない。
だからリルは動いたのよ」

「それじゃなくても次は俺かも」

CHECK POINT

忠告を受けたあと、中学生に話しかけることができる。しかし、誰かの話を聞くと次のシーンに移ってしまうので、3人のうちひとりにしか話しかけられない。が、とくに情報の変化はない。それと電話をかけるイベントで、リダイヤルを選択すると白髪の少年が出る。話を聞くのも面白い。

Moonlight Syndrome ～月光症候群～

団地にアリサが遅れて到着。そこでナナという少女に出会う。ナナが言うには、なんとつぎにダイブするのは自分だという。事件の鍵となるのは、この団地に住むリルという少女であると知ったアリサは事件の真相へと近づいていく。

「リルってコがキーパーソンになるわけね」

「ナナちゃん…」

「…これで安心して」

ナナ救出とリル捜索のどちらを先にするか選択することができるが、どちらを選んでもナナは消えてしまう。

「泣いてるの？」

「次はナナがダイブするの」

ナナを救うと誓ったアリサは、ミカと合流。ナナの救出とリルの捜索に出発する。だが、ふたりが駆けつけたときには、すでにナナはリルに連れ出されたあとだった。

「逆らえないんだよ、リルには」

「ここか、よしっ！」

団地に着いたユカリとチサトの前に、ヤヨイが出現。チサトの妹であることを明らかにし、邪魔なユカリを屋上に飛ばしてしまう。

「…仲がいいね」

「お久しぶり、姉さん…」

「ダメッ!!」

「…どこなの? ココ～」

「ここのコたち みんなウソつきだから」

そのころミカは、リルがいると思われるA棟の前に。アリサとはぐれてしまったが、ひとりでリルの捜索に出発する。A棟だけでも100近くの部屋があるが、明かりの灯る部屋をしらみつぶしに探して、ようやくリルと会えたのだった。

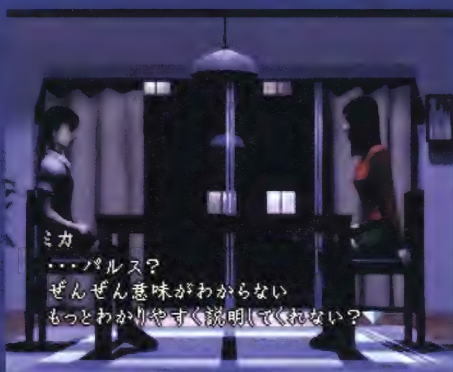
「リルちゃん…」

「どうぞ入って」

CHECK POINT

リルの部屋を探すとき、子供たちは逆のことを教えてくれる。そう、つまり1010号室でなく101号室にリルはいる。

「そこで何してるの」

屋上に飛ばされたユカリ。その前に、今にもダイブしようとするナナがいた。ユカリは慌てて助けようと試みるが、アリサが助けに来なかったことでナナは心を閉ざしていた。そしてユカリの懸命の説得もむなしく、これがリルに勝つことだと信じてダイブする。まるで何か大きな力に誘われるように……。

「近寄らないで、みんなが見ている」

「…ナナは逃げないよ」

そのころ、ミカはリルから事件の真相を聞かされていた。だが、それは社会に矛盾を感じつつも、何もできない中学生たちの悲しい抵抗であった。そして、ミカはリルに薬で眠らされてしまう。

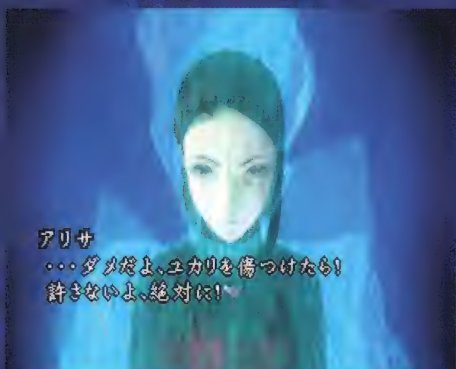
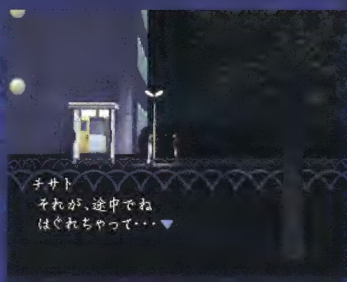
「わたしはただのシンボルにすぎない」

「わたしたちに与えられた時間は月が見え始める隙間の時間」

「その反抗が自殺なのよ」

「…フフフ」

CHECK POINT

リルの部屋で、ミカは眠らされてしまう。お茶に薬が入っているわけだが、飲まなくても意識を失ってしまう。どちらを選んでも、とくに意味のあるセリフが聞けるというわけではない。

ミカとはぐれていたアリサがチサトと合流し、チサトはここで起こったことを知る。そしてふたりはユカリとミカの捜索へ。そのころユカリは、ナナを助けたことで子供たちの殺気に襲われていた。しかし間一髪でアリサに助けられる。

「二人と合流しないと」

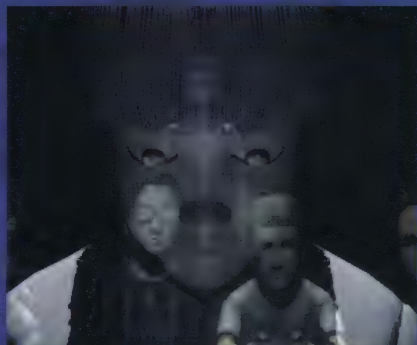
「ありがとうミカさん」

「ここから消えて!」

ミカの捜索中に、チサトはダイブしようとするリルに遭遇する。そしてチサトの言葉も聞かずリルはダイブ。しかし結局は父親が犠牲となり、リルは助かる。その直後チサトの前に再びヤヨイが現れチサトたちをあざ笑うのだった。

「……」

「悲しいよ、死ぬなんて」

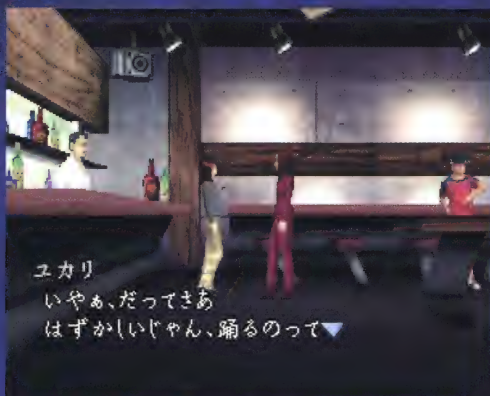
「あのコの父親よ」

Noise

電破 DENPOW

電【でん】電気、電車、電話など人が生きていくうえで必要な、ライフラインでもあるエネルギーを示すものである。

破【やぶる】引き裂いたり、穴を開けたりして不完全なものにする。何かによってそれまで続いた状態を終了させる。

夢であって、夢でもいいから、夢ではない。人はそのときの波(気分)によって、さまざまな夢を見る。そして人は、夢によって喜び、傷つき、そしてまた夢を見る。

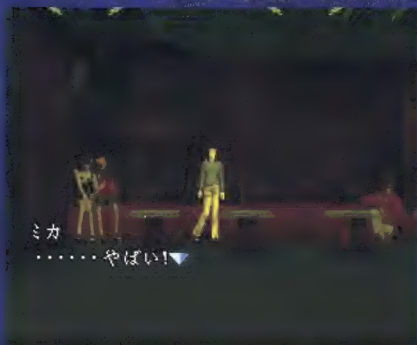
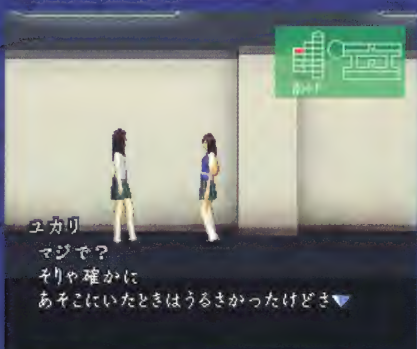
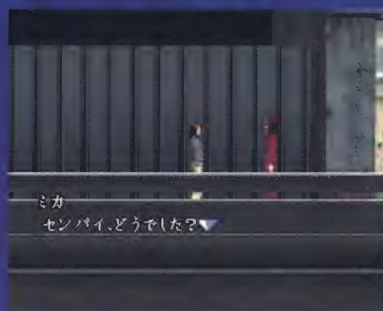
ある日ミカは、クラブ嫌いのユカリを誘いクラブに出かけることに。クラブでは何気ない会話をくり返すふたり。それにより、始めは冷めていたユカリもしだいに雰囲気になれていく。そしてダンスホールでは、ふたりで踊りだす場面も。その後、のどが渇いたというユカリはバーへ行く。ダンスホールに残されたミカは、床にうずくまって、眠ってしまうのだった。

「“ドリームパンク”っていうイベント、いっしょに行きません？」

「とりあえず行ってみるよ」

「もっと自分をさらけ出せれば楽になれるのにねー」

「センパイ、踊ってみます？」

「う～ん」

「いつのまにか寝ちゃったよ」

いつの間にかダンスホールで眠ってしまったミカ。起きたときには、かなり時間が経ってしまっていた。起きるとすぐに、ミカはユカリの待つバーへ向かう。ユカリの前で慌てて謝るミカだったが、ユカリの笑顔にホッと息をつく。そしてユカリの楽しそうな姿を見て、「大好きな先輩に楽しんでもらえた」と喜ぶのだった。

「これだったらまた来てもいいからさ」

「全然眠れないよー」

ユカリの笑顔に、喜んで家に帰るミカを襲う耳鳴り。クラブに遊びに行ったときにはつきものと思っていたが、今回はなぜか耳鳴りがいつまでたっても治らない。翌日学校に行くときも、その耳鳴りは続いていた。そのうえ、学校でユカリやミホに相談すると、彼女たちの心の声が聞こえたりと不思議な現象が起こるのだった。

「変なのはお前の頭の中だろ」

「いまだに耳鳴りがとまらないんですよー」

1時間目が終わったあと、ミカはミホに体育教師の保坂が生物室で保健婦と密会している噂を聞く。好奇心旺盛なミカは、さっそく生物室へ。しかし、そこで見たものは恐怖の映像だった。そして2時間目のあとの休み時間、幻聴を聞くミカ。立て続けに起こる現象を不審に思いながらも、3時間目に突入。強烈な睡魔に襲われ、眠ってしまうのだった。

「ミカー」

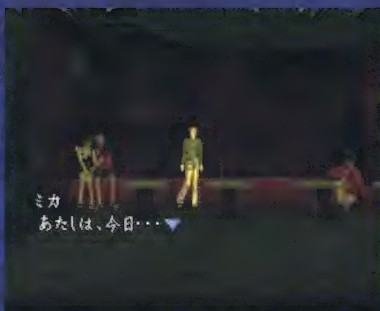
「生物室の噂って知ってる？」

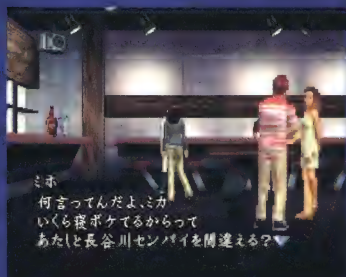
「何これ!?」

「蛇口をひねったら命令がきたの」「？？？？？」

「こいつの授業なら寝れるな」

1時間目、2時間目のそれぞれ終了後、ミカは校舎内を自由に歩き回れる。特定の場所や、時間の経過によりイベントが発生するが、5分経つと強制的に教室に戻される。また、この時に何もしなくても、5分経つと次の授業に入る。

「あれっ!?」

目覚めるとそこはクラブだった。学校でのことは夢と考え、ユカリのもとへ。しかしそこにいたのはミホだった。不思議に思いつつもミカは家路につく。

「え？あれ？あんたミホじゃん」

「寝つけないな」

クラブから帰り、眠りにつくミカ。しかし、目を覚ますと3時間目の授業中だった。戸惑うミカを再び耳鳴りが襲う。耐えきれなくなったミカは保健室に行くが、そこで気を失ってしまうのだった。

「岸井さん！」

ミカ
い、いや、きわほうが
あたしののうしんぼうを生きるんです
それで
TZW、TZW、TZW、TZW

「きわほうがいきるんです」

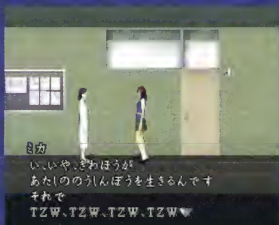
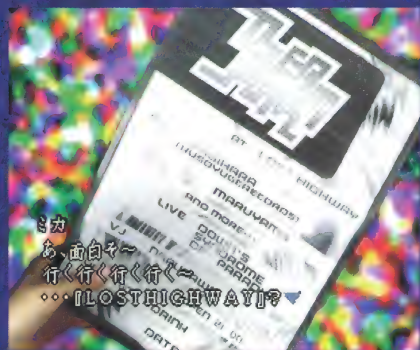
「あれ？」

目を覚ますと、またクラブに。そこには白髪の少年がいた。そしてミカは再び気を失い、気が付くと金曜日に戻っていた。

「…今日は金曜日…？」

「え…？」

「キヒヒヒヒヒ」

「大人をからかった罰よ」

開扉

KAIBYO

開【ひらく】閉じていたものが広がった状態になる。閉まっていたものが、開くことで出入りできる状態が生じること。

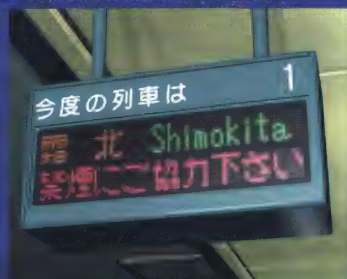
扉【とびら】開き戸の戸。書名などを記す見返しのページ。雑誌などで本文のまえの第一ページを記すときも使われる。

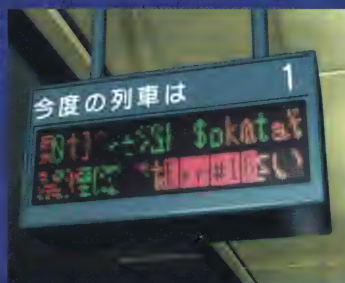
Mind;Heart;Spirit

秘められた人の心を目の当たりにし、ミカは俗世への扉を閉じた。それにより自身の内面への扉が開かれ、ミカはそこに逃げ込む。他人に無関心な今を表現している。

アリサと霜北に行くため、ミカは雛代台駅にやってくる。しかし、事故のため電車は停まってしまう。そこへようやくアリサが到着。それと同時に、なぜか電車の発車ベルが鳴り響くのだった。

「ミカ～、お待たせ～」

「電車出発するよー」

「霜北の駅にて事故が発生したため しばらくの間停車いたします」

「…あれ?」
「さっきまで事故だっていってたのに」

CHECK POINT

雛代台駅ではなんのイベントもないように見えるが、自動販売機でジュースが買えたり、ホームの左端に行くとあるかけ声とともにミカがサッカーボールを蹴るイベントがある。

「あんたが電話かけてきたんじゃない」

突然の電車の発車を不思議に思いながらも、ミカとアリサは電車に乗る。そしてふたりは、たわいもない会話をしているうちに睡魔に襲われ眠ってしまう。

「かけてないよ～」

「…なんか眠くなってきた」

「子供？」

少ししてミカが眠りから覚めると、なぜか目の前の座席に白髪の少年が座っていた。少年はミカに閉ざされてしまった人の心について語りかけるのだった。

「周りを見てごらんよ」

「みんな自分の事で精一杯。
他人に興味なんてないんだから」

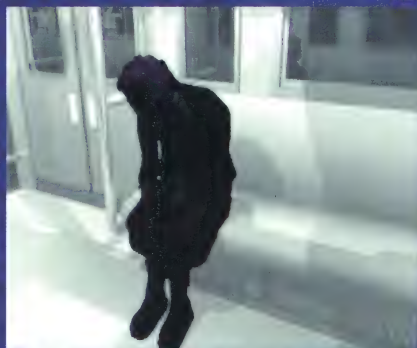
ミカが嫌がるのを無視し、少年は人の心のなかを見せ始めた。おじさん、お婆さん、主婦、青年、子供たち。みんな絶対誰にも見せない裏の心を持っていた。しかし、最後の車両で眠るリョウの心だけは見えなかった。

「気づけよ！別れたいのに」

「バカな女ほど笑いに弱いからな」

「…あの女、こっち見てる。俺に惚れたか？」

「安らぎが欲しい…誰かが俺を救ってくれよ」

「ぐうたらな孫ばかりでねぇ」

「早く迎えに来てくれないかねぇ」

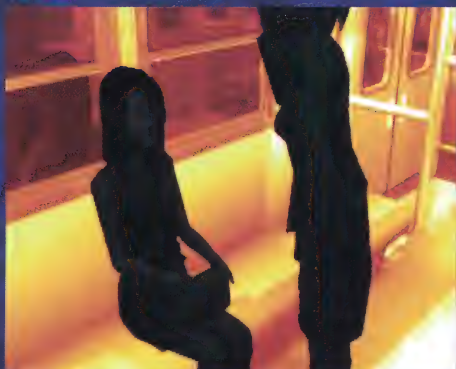
「…ほんと下品な人たち」

「噂たててあの街にいられなくしてやる」

「イジメたい…誘っちゃおうかな」

「…殺してやりたい」

「平和ってなに？」

「鎖で繋いで束縛を…」

「わたしの芸術に無用はない」

「ファンタジーっていいわ」
「オトナはバカ」
「エヴァっぽい」
「人間なんてね、こんなもの。きれいなものなんて何もない」

「…何も聞こえない…どうして？」

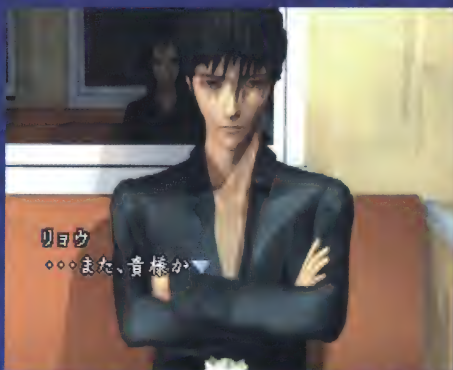
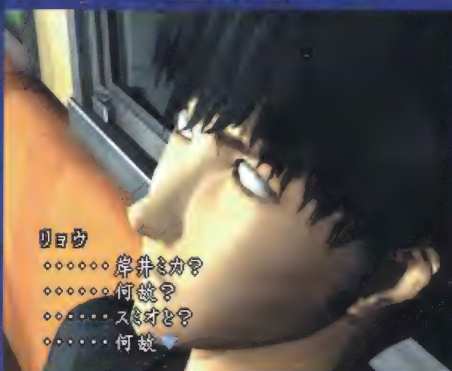
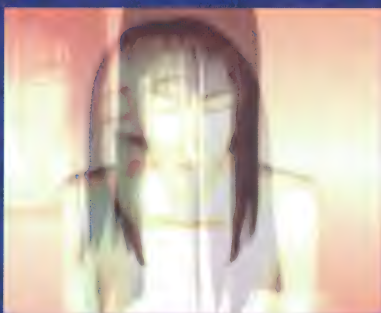
「ほらっ、ここにいるよ。リョウの大切なモノが」

白髪の少年の気配で、リョウは目を覚ました。少年の隣には眠るミカが座っていた。少年は、リョウを挑発するように話しかける。リョウがミカに惹かれているのを知っていたのだ。リョウは、「オレやその女にかまうな」と怒りをあらわにした。

「…俺にかまうな。その女にもだ」

リョウの言葉をまったく無視する少年は、一方的に語りかけ、さらにミカの心のなかまで見せ始める。その心のなかはスミオとのことがすべてだった。そしてリョウは、放心状態に陥ってしまう。

「…これがミカのすべて。これっぽっちしかないんだよ」

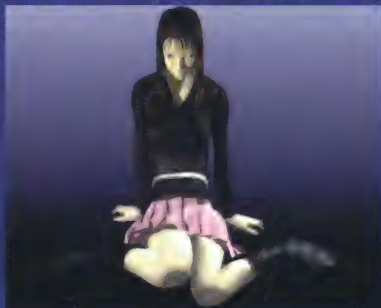
「…スミオ、…キョウコ、…何故」

現実とは異なる世界で目覚めるミカ。そのミカに、少年はさまざまな世界を見せ始める。そしてさらに異次元の奥へミカを連れ込もうとするが、ミカは拒絶するのだった。しかし、少年の勝手な意思によりミカは引きずり込まれる。

「みんなしてることじゃん」

「これも罪なの？」

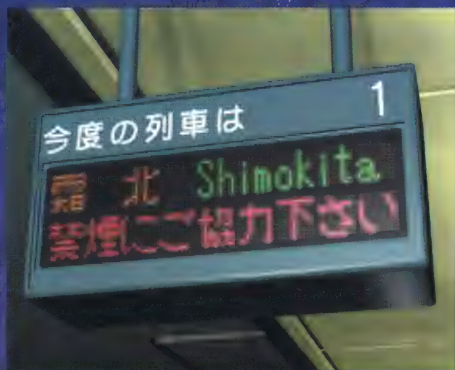
引きずり込まれるミカに、リョウが叫ぶ。そんなリョウに、少年は再びスミオの住むミカの心のなかを見せる。しかし、ミカを守ることが自分のできることと気づいたリョウは、強い意志を持って立ち向かい、光の中へ身を投じた。

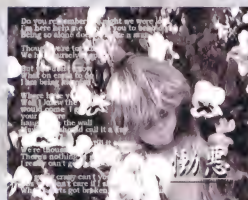
「あれ、ここは？」

「…ヤダ」

「ヤダよ」

「これは命令なんだよ」

「この女を守ること…」

「キョウコ」

何事もなかったように目覚めるアリサ。しかし、そこにミカの姿はなく、電車も雛代台駅に停車したままだった。なぜ?ミカは!?

「どうして、ここに…」

慟悪 DOWAKU

慟【どう】普通より激しく悲しむこと。同意語に“嘆く”がある。慟哭や慟泣などのように、悲しみ泣くことを表す。

悪【あく】悪いこと。よくないこと。あるものにとって好ましくないこと。望まれないこと。または、好ましくない人。

Genocide

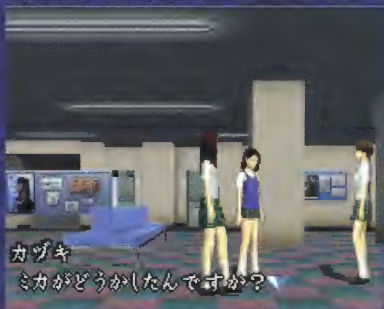
雛代の街を包みこむ悪がついに動き始めた。それは少女たちを、急速にそして確実に渦の中心へと導いていく。まるでそれは逃れられない時間の流れのようでもある。

休日の雛代高校で、巨大なクレーンが旧体育館の解体作業をしている。しかし、その旧体育館のなかに、雛城高校の生徒が。そしてその生徒は、無情にも木材の下敷きになってしまう。作業員がそれに気づくが、時すでに遅く、下敷きになった生徒は死んでしまう。

「おーい、作業をやめろー」

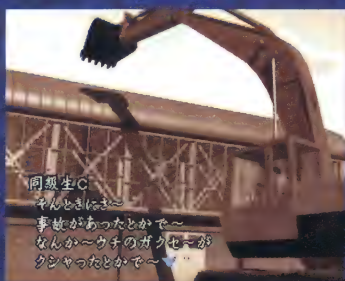
「誰かが下敷きになっているぞー」

休日明けの学校で、ユカリはアリサに呼び出される。そこでミカが行方不明になったことを知る。同級生も知らない、PHSや家に電話しても誰も出ない。不審に感じたふたりは、ミカの捜索を始めるのだった。

「ミカがいなくなっちゃって行方不明みたいなの」

「ミカが行方不明!?」

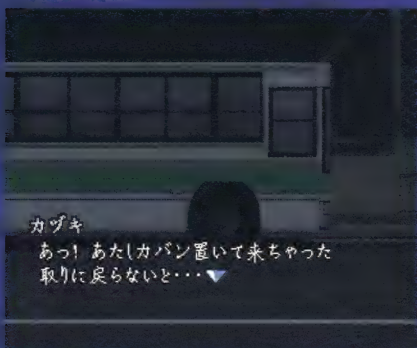
「なんでこんな所に…」

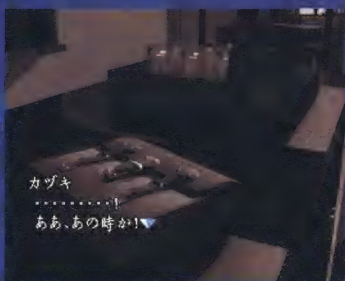
誰に聞いても何の手がかりも得られないふたり。そこへカヅキも加わり、アリサはミカの自宅へ、ユカリとカヅキは部室へ向かった。そしてミカのロッカーで謎のナイフを見つけるのだった。さらに捜索を続けると、ミカの同級生に解体作業中の事故の話を聞く。もしかしてその事故でミカが!?

事実を確かめるため、ふたりは広瀬先生のもとへ。だが、事故にあったのはミキという生徒だった。ミカの行方は!?

「……」

「事故があったことは本当だ」

「2年の香坂ミキという生徒だ」

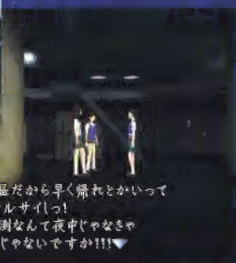
「先に帰ってて、それじゃ」

その夜、部活を終えたカヅキは友人との帰宅途中、忘れ物をしたことに気づく。そしてひとり学校へ戻るがそのとき、忘れ物を見つけたカヅキは何者かに襲われ、帰らぬ人となってしまうのだった。

「……」

「キャアアアアー」

翌日、ユカリはアリサにカヅキの死を知らされる。湿ったムードがふたりを包むが、天体観測部のミユキが深夜ミカを見たという情報を入手。さっそく天文部へ向かった。

「えっ？カヅキが死んだ」

「ミカのことでちょっと」

ミユキ
近頃物騒だから早く帰れとかいって
先生もウルサイしっ！
天体観測なんて夜中じゃなきゃ
できないじゃないですか!!!

「例の事件にはメイワクしてるんですよね」

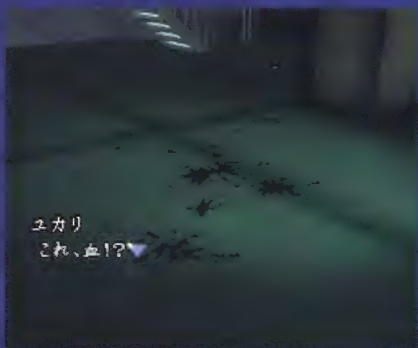
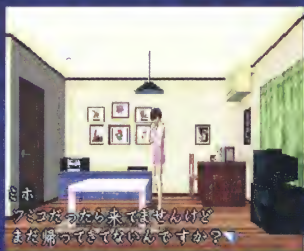
天文台にいるミユキに会い、ミカの行方について聞いたが、とくに手がかりは得られなかった。それどころか、ミユキの口から出た言葉は、そのせいでこっちは大迷惑という冷たいものだった。結局この日のミカの捜索は、何も進展しないまま終了する。いったいミカはどこへ行ってしまったのだろうか。ふたりのミカの捜索は、翌日に持ち越されることに。

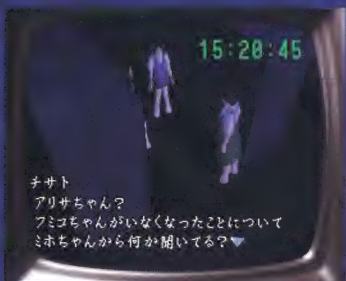
翌日、ユカリはミカの捜索に行こうとアリサを迎えにいくが、アリサはミユキの所へ行ったと聞かされる。そしてユカリもミユキのいる天文台へ向かう。しかし、ユカリが天文台で目にしたものは、ミユキの見るも無惨な姿だった。

「アリサのやつ昼休みにミユキセンパイ捜しに行ったきり…」

「ミユキッ!?」

「……」

深夜、ミホの部屋に電話が鳴り響く。それはフミコの母からの電話で、フミコがまだ帰らないが何か心当たりはないかというものだった。心配になったミホは、アリサに助けを求め、フミコの捜索に深夜の学校へ向かうのだった。

「えっ？フミコがまだ帰ってこない？」

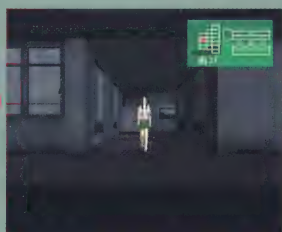
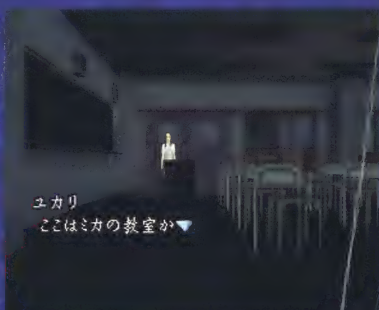
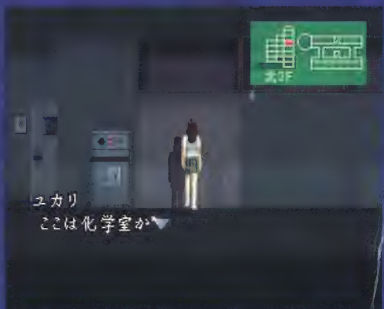
深夜の雛代高校にアリサと、アリサから連絡を受けたユカリとチサトが集まっていた。どうやらミホは先に学校へ来ているらしい。ひどく胸騒ぎを感じながらも、３人は分担して学校を捜索することに。まずユカリは２階から上を捜索したが、手がかりは見つからなかった。

15:20:45
チサト
アリサちゃん？
フミコちゃんがいなくなったことについて
ミホちゃんから何か聞いてる？

「……」

「やっぱり行くの？」

「誰もいない」

CHECK POINT

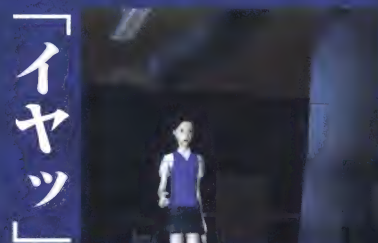
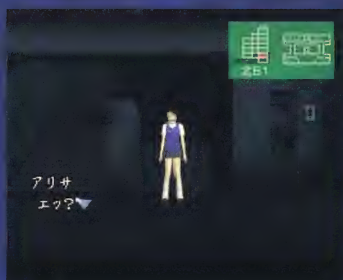
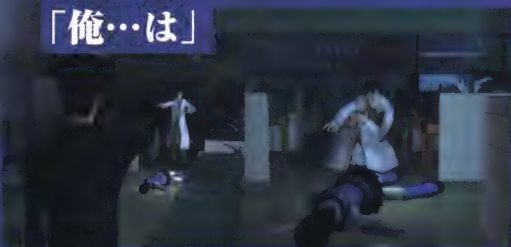
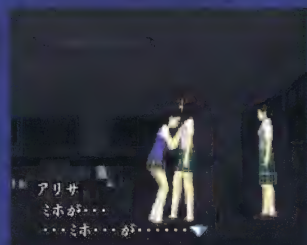
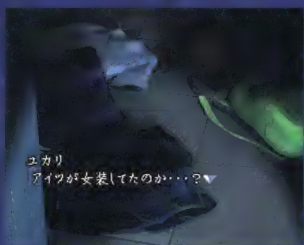
ユカリは２階から上を捜索するが、各階をしらみつぶしに調べないと、上の階へは進めないようになっている。また各教室だけでなく、北館と南館をつなぐ渡り廊下もチェックしないといけない。時間はかかるが全部調べるように。

「鍵がかかってて入れない」

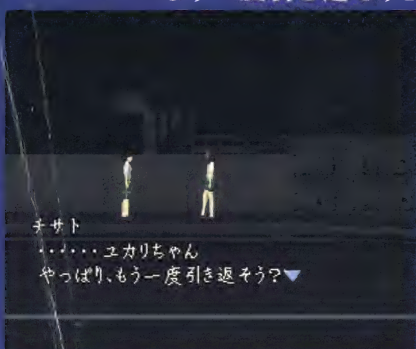
地下を捜索するアリサは、生物室から物音を聞く。入ってみると、そこにはミホの死体と広瀬先生が。先生はゆっくりとアリサに近づくが、そこへ警官が突入し先生を撃つ。そして遅れて駆けつけたチサトたちは、女装セットを見つける。

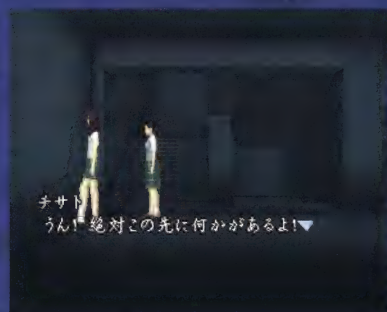
「エッ、今音がした?」

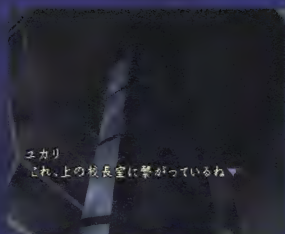
「イヤッ」

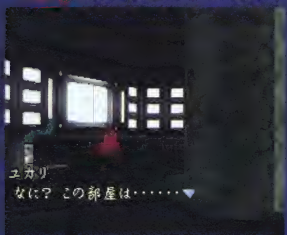
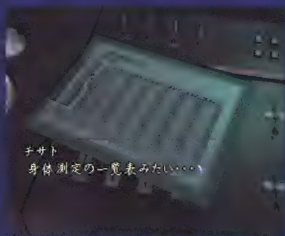
「俺…は」

「…違う…」

「止まれー」

「ウッウッ」

「ユカリちゃん。
もう一度引き返そう」

「ちょっと
気になることがあるの」

アリサは救急車で運ばれ、ユカリとチサトは正門前に立っていた。チサトがもういちど校舎に戻ろうと言うのだ。広瀬の存在や警官の来るタイミング、そのどれもができすぎていることが、チサトの心に不安を残していた。そしてふたりは再び校内へ。

「ここが怪しいって言うの?」

校舎内に侵入したふたりは、受付を訪れた。そこには巨大な大理石の柱がそびえていた。不自然さを感じ、柱の続く校長室へ。校長室の中央にはやはり柱が突き抜けていた。そして柱がエレベーターであることを発見し、ふたりはエレベーターで上の階へ向かった。

「この大理石の支柱
やたら大きすぎると思わない？」

「とにかく乗ってみよう」

「アタシたち
監視されてたんじゃない」

「なんでこんなものが
こんなところに」

ふたりがエレベーターで上がった所は屋根裏部屋だった。そこには数十台のモニターが並べられ、学校の様子が映し出されている。どうやら誰かに監視されていたようだ。そう思ったユカリとチサトは、パネルの上に、ミカのクラスの身体測定一覧表を発見する。

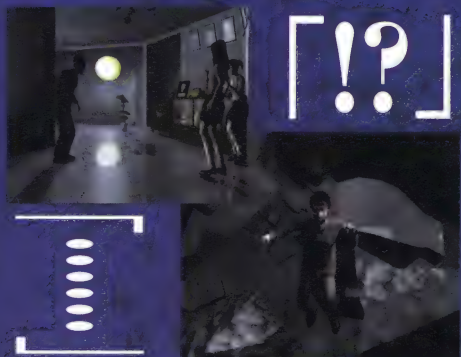
さらにこの学校の真実を探るためふたりは地下へ。着いた所はまるで手術室。そこでふたりは今まで死んだ生徒たちが人体標本の材料だったことを知る。

「キ、キミカッ？」

驚愕の事実に怯え、ふたりは一目散に上へ。だが、すべての事件の犯人の校長に見つかった。そのとき突然床が崩れ校長は転落。間一髪でふたりは助かる。

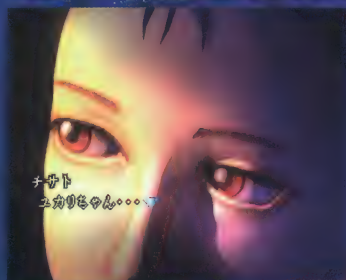
「まったく君たちにも困ったモノだな」

「!?」

「……」

Genocide

エピローグ

EPILOGUE

いよいよ最後の戦いが始まる。全員がそれぞれの心を解放するため、さらにミカというかけがえのない存在を守るため。しかし、本当の意味で心を解き放てるかは、プレイヤーしだいなのである。

一連の事件は解決されたように見えたが、肝心のミカがまだ見つかっていない。しかし、学校にミカの気配を感じたユカリ、チサト、アリサは再び雛城高校へ。そこに危険が待つことを覚悟して……。

「…どこなの？」

「ミカちゃん、戻ってきたよ」

「学校だよ」

リョウがミカよりひと足早く現実の世界に戻ってきた。そこにルミが現れ、リョウについていこうとするが、危険が待つことを知っているリョウは、ひとり雛城高校に向かうのだった。ミカを救うことが自分の運命であるかのように。

「…クライマックスだね」

「…ミカを助けてあげてね」

「絶対間違いないよ。5階だ」

ミカの気配を感じ、5階に向かうアリサ。突然気配は消え、ユカリたちとの待ち合わせ時間を知らせるアラームが鳴る。仕方なく戻ろうとするとき、白髪の少年が現われるのだった。そしてアリサは、無惨にも白髪の少年の手により殺されてしまう。

「ホントになんか来たよ」

「…ヤバッ!」

「危なかったよ」

「……」

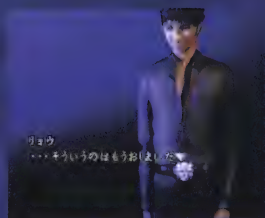
「こんばんは、アリサ」

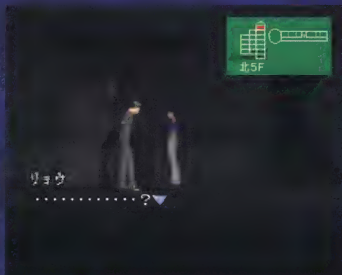
「バカだな、アリサは」

そのころユカリは、ひとり待ち合わせ場所に。そして少年の悪意は、ユカリに向けられた。チサトが慌てて駆けつけたが、ユカリは残酷な現実に発狂してしまう。チサトは少年に戦いを挑むが敗れ、逃げだそうとしたユカリも殺される。

「どれくらいぶり?」

「うわぁ、気持ち悪い」

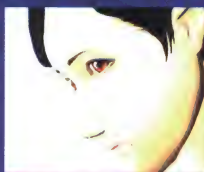
校舎に入ったリョウは、ユカリの亡骸に少年の力を感じた。そこへヤヨイが現れ、リョウを止めようとする。しかし、迷いのなくなったリョウは、真っ直ぐにミカのもとへと進む。ヤヨイの「死なないで、本当に」という言葉を背中で聞きながら。

「…どこだ、あいつは」

「…憑いてこいとでも」

ミカのもとへと進むリョウは、5階でチサトの念に導かれ刀を手にする。それで少年を倒すことを理解したリョウは、最後の戦いを挑む。そしてついにリョウは……。

「…これで…殺れっていうのか」

「俺だからできる…？」

「…いよいよ最後だね」
「…みんな死んでたね」
「なんだか死にたくなってきちゃった」

少年を倒したリョウは、再び心のなかでスミオやキョウコたちと会う。そこでリョウの心は大きな呪縛から解放されるのだった。そしてあの場所に駆けつけたリョウはミカと再会する。

「…解放してあげる」

「やっとだね」

「キミに執着してよかったと思ってるよ」

「やっと迎えに行くことが……」

フローチャート
Flow Chart

奏遇

ミカのマンション
ミカの教室
ミカ、カヅキ会話
この後の予定は　　なんか面白い話ない？
この後の予定は？　　面白くなくてもいいから何かない？
この後の予定は？　　本当は何かあるでしょ（情報入手）
教室前廊下でアリサと会話　　教室前廊下でアリサと会話
３年の教室でチサトと会話
職員室前で先生と会話

道に不審者が点在する所
浮浪者
相手にしない
答える
デブ男
逃げる
話す
逃げる
ゲームのことを聞く
ダイナマイトパンチ
効き目なし
逃げる
マッハ蹴り
バタフライキック
逃げる
カカト落とし
ヒザ蹴り
バタフライパンチ
一緒に行く
逃げる
延髄ラリアート
マウントパンチ
ローリングエルボー
誘惑する
逃げる
チョップ
マンハッタンドロップ
ローキック
ネグリジェの女
逃げる
見た
見てない
逃げる
見た
見てない
逃げる
知らない
答える
知らない
ミカ
ユカリ
チサト
嘘ついてない？
本当なんだ
嘘ついてない？
本当なんだ
嘘ついてない？
本当なんだ
思う
思わない
住宅地でミカを追うリョウ
住宅地のミカ
後ろから足音
無視
振り向く
住宅地のミカ
走る
逃げる
住宅地のリョウ
ミカ、霜北到着
リョウ、犬の死骸凝視
霜北のミカ
考える
憶えている
忘れちゃった
「MISERABLE LIE」前、アリサと接触・会話
アリサと行く
ルミを探す
アリサと別行動に
アリサと行く
ルミを探す
「阿修羅楽器」前、ルミと接触・会話
「RANK」前にルミと行く
ルミ帰る
ヤヨイと接触
あの
その
えっと
それで
ヤヨイと会話
案内してもらう
断る
ヤヨイを追う
陸橋下、ヤヨイ消える、ストーカーに襲われるミカ
駅前、リョウとヤヨイ接触・会話
ユカリとチサト、ミカを救助
クラブで白髪の少年とヤヨイにリョウが会う
ミカ、ユカリ、チサト友情確認
連行途中で舌をかみきるストーカー
END
片倫
教室でミカ、カヅキ、ミホ会話
廊下を走り抜ける白髪の少年
ミカ、少年を追う
北B1
南屋上
少年の声
北1F
北4F
南2F
北2F
南3F、少年と接触
少年を追い教室に
森の中にミカの友人たちの姿
遠ざかる友人たち
死体の山
ナイフを手にし、立ちすくむミカ
死体の山
現実に戻るミカ
マンション前、救急車とすれ違う
END
次に進む
青字に戻る

浮誘
タクミのダイブ
校舎前、ミカ、ユカリ、チサト、アリサ会話
ＰＨＳを忘れ校舎へ引き返すミカとアリサ
北４Ｆ、校長と接触・会話
図書室へ
携帯発見
急ぐ
気になる
急ぐ
まだ気になる
団地前、ミカがアリサたちを待っている
電話
ポケベル
アリサにかける
チサトにかける
リダイヤル
白髪の少年の声
団地に向かう
昨日の自殺の現場検証チョーク跡
ヒロシ、タケル、ルカ登場・会話
解った
解らない
３人の中学生バラバラに
画面向かって左
ルカに接触・会話
画面向かって手前
タケルに接触・会話
画面向かって右
ヒロシと接触・会話
団地前にアリサ到着
ナナと接触・会話
ミカとアリサ合流
ナナを助ける
リルを探す
ナナさらわれる
アリサ、ナナ宅へ
アリサを追う
ミカ単独でリル探しに
ミカとアリサ、Ｃ棟到着
エレベーター
（８Ｆ直通）
階段
（途中エレベーターに
切り換えも可）
10Ｆでヒロシと遭遇
タケルと接触・会話
自殺に
関して
ナナに
関して
リルに
関して
ナナ宅（803号室）
タケルと接触・会話
アリサ消える
ミカＡ棟へ
団地内のアリサ
アリサナナ宅（803号室）へ
Ａ棟前のミカ
団地前、ユカリとチサト
ヤヨイと接触・会話
ヤヨイがユカリをとばす
ヤヨイ消える
ミカＡ棟内（エレベーターは使用不可、階段で行くことに）
アラマタポイント
１Ｆ全室、イベントなし
２Ｆ踊り場
203
203、210以外、イベントなし
210
３Ｆ踊り場
310
307、310以外イベントなし
307
４、５、６Ｆ全室、イベントなし
７Ｆ踊り場
705
701、705以外、イベントなし
701
８Ｆ踊り場
805、808
801、805、808、809以外、イベントなし
801
809
９Ｆ踊り場
906
902、906以外イベントなし
902
10Ｆ踊り場
1010
1009
１Ｆ踊り場
101
ベルを押す
ベルを押さない
ミカ、リルの部屋へ
屋上でユカリとナナ
さっきの人って？
誰が見てるの
嘘つかないよ
リルっ
て誰？
本当に
アリサの声？
リルっ
て誰？
なぐ
さめる
本当に
アリサの声？
なぐ
さめる
叱る
なぐさめる
相手にしない
叱る
なぐさめる
リルの部屋、ミカとリル会話
信じない
信じる
信じない
信じる
止めて
どうやるの
止めて
止めないでいい
飲む
飲まない
団地前、アリサとチサト合流
リルの部屋、ミカとリル
団地前、ユカリ
動かない
逃げる
戦う
説得する
動かない
逃げる
戦う
説得する
アリサがユカリを助けに
屋上、チサトとリル会話
リルのダイブ
団地前、ユカリとアリサ
（ユカリとナナの会話の選択によりメッセージ変化）
ユカリとアリサの前にリル落下
屋上、チサトとヤヨイ会話
団地の小学生たちの部屋、白髪の少年登場
ＥＮＤ
CAUSION
各階の部屋に、４号室はないので気をつけよう。
次に進む
青字に戻る

電破
ミカとユカリＴＥＬで会話
クラブ、ユカリとミカ
リバーオブサマー　スリーアイランド　ジオ・カタストロフィー
ユカリ、トイレへ
ユカリ戻ってくる
ああ、あのデブ？　ああ、あのオタク？　ああ、あのブス？
クラブＢ１バー
男２人組
男女２人組
中央の男
クラブＢ１廊下
女
別にいいけど　やだよ
男
クラブＢ１ホール
男女２人組
中央の女
女３人組
男２人組
クラブＢ２廊下
受付
クラブＢ２ホール
男
女３人組
ＤＪブースに接触
まだいいや　踊る
ユカリＢ１バーへ
ミカ眠る
ミカ目覚める
クラブＢ１バー、ミカ、ユカリに接触・会話
クラブ前、ミカとユカリ会話
マンション前、ミカ耳鳴り止まず
ミカの部屋、ミカ耳鳴り止まず
雛城高校南４Ｆ廊下、ミカとユカリ会話（ユカリの心の声）
ミカの教室、ミカとミホ会話（ミホの心の声）
１時間目終了（５分間休み時間）
ミホと接触（生物室の噂）
南４Ｆトイレ前（男の声）
生物室入口（一瞬、ある映像が見える）
ユカリの教室
時間イベント（３分後）
休み時間終了（５分後に教室にいない場合、強制的に戻される）
２時間目開始（耳鳴り止まず）
２時間目終了（５分間休み時間）
ミホと接触
南４Ｆチサトと接触・会話
化学室（男の声）
時間イベント（２分後）
休み時間終了（５分後に教室にいない場合、強制的に戻される）
３時間目開始
ミカ眠る
目覚めると、クラブＢ２ホール
クラブＢ１ホール、ミカとミホ会話
クラブ前、ミカとミホ別れる
マンション前、耳鳴り止まず
ミカの部屋、ミカ眠る
目覚めると、ミカの教室
３時間目終了
保健室へ向かう（それ以外の所に向かうと、ひどい頭痛で行けない）
保健婦と接触・会話
ミカ倒れる
目覚めるとクラブＢ２ホール（人がいなくなっている）
クラブＢ１バー、白髪の少年と接触・会話
ミカ気絶
目覚めるとミカの部屋
ミカの教室、ミホと会話
ＥＮＤ
次に進む
青字に戻る
開扉
雛代台駅、アリサを待つミカ
自動販売機
インドティ　あんみつソーダ　アボガドシェイク　チョコ茶
翼君イベント
ホーム右端、アリサと合流
電車の事故停止、復旧
電車内、ミカとアリサ会話
最近どう？　これから　どうする？　なんで遅れたの？　あたしも疲れた…
聞きたい　聞きたくない
聞きたい　聞きたくない
アリサの夢の話
聞きたい　聞きたくない
アリサ寝る
白髪の少年登場
ミカと少年会話
サラリーマンの心の声
進む　聞く
カップルの心の声
進む　聞く
老婆の声
進む　聞く
男子高校生の心の声
進む　聞く

慟悪

体育館解体、事故発生

３年生教室、ユカリとチサト会話

屋上、ユカリとアリサ会話

３年生教室、ユカリ、チサト、アリサ会話

ミカの教室、ユカリとアリサ

同級生Ａと会話

ロビー、カヅキと会話

ユカリとカヅキ、ラクロス部部室へ。アリサ、ミカ宅へ

ミカのロッカー、ナイフ発見

ミカの教室、机の中、手帳発見

同級生Ｂと会話

- 悩みとかありそうだった？
  - 行きそうな所？ → バイトとか？
  - バイトとか？ → 行きそうな所？
- ミカの行きそうな所は？
  - 悩みとか？ → バイトとか？
  - バイトとか？ → 悩みとか？
- ミカはバイトとかしてた？
  - 悩みとか？ → 行きそうな所？
  - 行きそうな所？ → 悩みとか？

隠しカメラに映る２人

同級生Ｂと会話

同級生Ｃと会話

（用務員室前、アラマタイベント）

化学室、広瀬先生と会話

ユカリ、カヅキ会話

アリサからＴＥＬ

放課後正門前、カヅキと友人達

カヅキ、忘れ物を取りに部室へ

カヅキ、化学室へ

カヅキ、襲われる

翌日の中庭、刑事の会話

３年生教室、ユカリとチサト会話

屋上、ユカリとアリサ会話

- いつごろ？ → 誰だかわかる？
- ミカを見かけた人って誰だかわかる？ → いつごろ

天文台、ユカリとアリサ、ミユキに接触・会話

天文台前、広瀬先生出現

翌日のアリサの教室、ユカリ来訪

同級生Ｄと会話

天文台、ユカリがミユキの死体発見

南２Ｆ廊下、アリサと接触・会話

隠しカメラに映る２人

ミホの部屋

フミコの母親からＴＥＬ

ミホ、アリサにＴＥＬ

夜の正門前、ユカリ、チサト、アリサ集合

３人でフミコとミホ捜索

校内昇降口

巡回の警官に隠れる３人

隠しカメラに映る３人

別々に探索決定

ユカリ探索開始

（美術室）

（保健室）

北１Ｆ・南２Ｆ一周

上の階へ

（ミカの教室）

（音楽室）

北２Ｆ・南３Ｆ一周

エピローグ

ユカリ、チサト、アリサ会話
学校前、リョウとルミ接触・会話
北３Ｆ、アリサ１人
北５Ｆへアリサ向かう
ユカリ、アリサ、チサト受付潜入シーン
アリサ北５Ｆの階段に接触
白髪の少年登場
アリサと少年、戦闘
受付、ユカリ１人
少年の声
北Ｂ２、チサト１人
アラームの音
チサト、受付へ
受付、少年とユカリとチサト会話
少年、アリサのアクセサリーを見せる
ユカリ発狂し、外へ出ていく
チサトと少年、戦闘
昇降口にユカリ
少年登場、ユカリ殺される
校舎前、リョウ
リョウ、校内潜入。ユカリの死体に接触
ヤヨイ登場
リョウとヤヨイ会話
受付のチサトの死体起き上がる
チサト、北５Ｆでリョウと接触
チサトに導かれ、リョウ校長室へ
刀入手
リョウ、自問自答
白髪の少年登場
リョウと少年、戦闘
少年、死亡
草原にリョウとヤヨイとスミオ
スミオと会話
ヤヨイと会話
キョウコ登場・会話
屋上の少年の死体の側に立つヤヨイ
満月の土手、リョウとミカ再会
ＥＮＤ

次に進む
青字に戻る

真実のムーンライトシンドローム

すべての事件が解決したように見えるが、さまざまな問題を残すこのゲーム。その疑問を開発者に聞く!!

ムーンライトシンドロームが残した問題とは

さまざまな人のつながり、表と裏の世界、そして人の存在理由などの問題を取り上げた『ムーンライトシンドローム』。濁った現代社会と照合することで、その解決策を問うているようだ。しかしゲーム中では表に見えることは解決されているが、問題の本質の解決がされていない。例えば白髪の少年の存在、周囲の人との関係は？　リョウの心の解放とは？　夢のようで現実のもうひとつの世界とは？　など、挙げるときりがない。そして、その解答らしきものは、ゲーム中にあるようでない。真の解答は、我々プレイヤーの心のなかに、各々存在するものなのか。それとも、開発者による意地悪なまやかしでしかないのか。はたまた、生活全般において解答を求める現代人が、ゲームの解答が得られず不安を感じること自体が問題なのだろうか。とすると、我々は、見事に開発者の術中にはまっている。そんな開発者の真意を確かめるべく、いくつか疑問を投じてみた。もちろん問題はこれだけではないが、少しは解決に役立つだろう。

Q. このゲームの企画意図は？

A. とくに意味というか必然性みたいなものはありません。ただ、ゲーム業界全体としてビジネスとアートの両立、そのバランスが極端な作品が不足しているので、誰も作らないのなら、『トワイライトシンドローム』の続編という状況をうまく派生させて僕たちが作ろうと企画しました。僕個人としては、前作で表現しきれなかった部分をかたちにしたかったんです。それらを練ったところなんとなく“新しい可能性”が見えました。僕は、ゲームという媒体にしても、それを受け入れる大衆層にしても可能性を重視しているので、無理な商業的思考は必要ないと感じたのです。

Q.白髪の少年の正体は？

A.現実であって、現実でないもの。具体的に言うと磁場とか波長とか心のバランスが崩れてしまった場所に棲み憑く、邪悪（ダークサイド）な意志の集合体です。つまりは、悪魔的な存在といったようなものです。

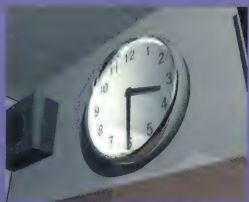
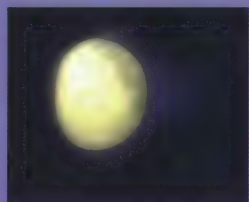
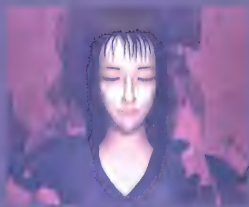
Q.白髪の少年と事件の関連は？

A.直接的にも、間接的にも関与していたと考えて下さい。なぜなら彼は悪魔的な存在ですから、直接姿を現すことによって事件を巻き起こすこともできますし、人の心の弱いところや、バランスの崩れたところにとりついて事件に関わることもできるからです。

Q.校長先生と事件の関連は？

A.校長先生があのような犯罪を犯したことの背景には、邪悪な意志の集合体である白髪の少年がいます。少年は校長先生だけでなく、キミカやリル、そしてスミオなどの“狂気”によっても憑き棲んでいますから、それぞれの事件は悪魔に憑き棲まれる、人の“狂気”が引き金になったと考えて下さい。

Q.逸島姉妹と少年の関係は？

A.具体的に言いますと、設定で白髪の少年はゾロアスター教（編集注：ペルシア［＝今のイラン］のゾロアスターが創始した、極端な二元教。太陽・光明・火を善とし崇拝した）の神です。正しくは、契約の天使です。チサトとヤヨイも同様の設定で、ズルワーン（時間）の系列にカテゴライズされる諸神霊「ヤサダ」の同種となります。つまり3人は血縁関係です。神話のなかにも過去、太古に遡るまで、様々な血塗られた対立の歴史があります。今回の3人の話もそのなかの一片です。ただ、今回ゲーム中では、それらの物語について何も用意はしていません。

Q.「あっちの世界」とは？

A.ズバリ言って、「死の世界」です。しかし、ある種の夢の世界であるという解釈もできます。その世界をプレイヤーがどう捉えるかは自由です。設定的には死の世界ですが、それだけでは説明できない部分もありますので。人によって解釈が違ってくるであろうことも、このゲームの特徴なので……。

Q.月との関連性は？

A.とくにありません。ゲーム中のさまざまな場面で登場しますし、ゲームのタイトルにも「ムーン」って入ってますから気になると思いますが、直接的な関連性は何もありません。このゲーム中の節目に使われる、記号的な役割のものだと思って下さい。

Q.この世界は自我の崩壊したリョウの世界と感じるのですが？

A.おそらくゲーム中の時間軸のずれ、超常的な出来事、そして謎の放置などのことを指していると思われるのですが、それらをひっくるめてすべて現実と僕は考えています。シナリオが進むにつれ現実からの脱線が始まります。それは認識を超えた、現実の向こうにある出来事が具現化した一例でもあるんです。白髪の少年や、チサトとヤヨイのオーラの発現などで現実が狂いだすんですが、それに理由をつけて説明するのは野暮な行為でしょう。また、彼らの発言や行動の中にひっそりと落としたというもくろみもあります。しかし自我の崩壊したリョウの世界と感じたのであれば、それがもっとも相応しい物語の形ではないでしょうか。僕が強くメッセージすることを嫌ったことの代償でもありますから。このゲームをプレイしていただいた人には、さまざまな解釈のしかたが出てくるだろうと思うんです。どれが正解ということはありません。それぞれ何か感じていただければ、ありがたく感じます。

Q.ミカの行方は？

A.ミカはエンディングの通り、リョウとともに土手にたどり着きました。責任や感情、愛憎、そして遺恨などあらゆるものすべてを背負った結果でもあります。しかし、結論から言うと、ミカは死んでます。

Q.エンディングムービーの意図は？

A.リョウがすべてを断ち切り、心を解放してミカを救い出したことですべては終了しました。それだけです。最後のリョウの表情に僕はすべてを込めたつもりです。

Q.このゲームで表現したかったものは？

A.ひとことに言って「不安」です。誰もが通過したり、直面している、わけのわからない漠然として巨大な重圧とでも言うのでしょうか。その解消ケースのサンプルを陳列させているのが、この作品といえるのではないでしょうか。

Q.作者の考えるこのゲームの結末とは？

A.ひとつのテーマに、リョウとミカの関係があります。その経緯や形はどうであれ、愛の物語と考えるならハッピーエンドですが、解釈はさまざまです。

そして問題解決の結論は？

いくつかの質問をぶつけてみて、ひとつひとつにそれなりの解答を得ることができた。しかし、このゲームにおけるさまざまな問題提示は、数ページで語りつくせるほど浅くない。プレイヤーそれぞれが感じ、解釈したこともまた正しい答えとして存在するのである。

ゲーム内容についての電話による問い合わせは、
一切受けつけておりません。御了承ください。

プレイステーション™完璧攻略シリーズ 60

ムーンライトシンドローム
完全ガイドブック

編　著　ファイティングスタジオ
発行者　井上功夫
発行所　株式会社　双葉社
〒162東京都新宿区東五軒町3-28
振替　00180-6-117299
印刷所　三晃印刷株式会社

Writer / 山田かずや、SADAO
Thanks / 吉沢宏充
Map / 柴崎宏
Design / OURS Co.Ltd（須川タカヒロ、寒水久美子、虻川貴子）
Computer Editorial System RECCA SHA Corp.
Digital Prepress SANKO PRINTING Co.,LTD

©HUMAN 1997
©FUTABASHA Printed in Japan　禁・無断転載複製
落丁・乱丁の場合は本社にてお取りかえいたします。定価・発行日はカバーに表示してあります。
"PS" マークおよび "PlayStation" は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。

ISBN4-575-16076-8 C0076

ISBN4-575-16076-8

C0076 ¥1000E

定価：本体1000円＋税

プレイステーションTM完璧攻略シリーズ60

ムーンライトシンドローム 完全ガイドブック

©HUMAN 1997

双葉社

"PS" and "PlayStation" are trademarks of Sony Computer Entertainment Inc.